

# かがわ県民カレッジ研究・実践講座受講生アンケート調査報告

## —大学における社会人（成人）学習者の学びに関する一考察—

山本珠美

- I はじめに：かがわ県民カレッジ研究・実践講座の概要
  - II 『香川大学社会人学生のキャンパスライフに関する調査』について
  - III 調査結果
  - IV 今後の課題
- Appendix A 集計データ一覧
- Appendix B 質問紙

### I はじめに：かがわ県民カレッジ研究・実践講座の概要

香川大学には、入試に際しての社会人特別選抜<sup>1)</sup>や科目等履修生制度、あるいは生涯学習教育研究センターにおける公開講座等の実施など、高卒直後に入学する一般学生（いわゆる“伝統的学生”）以外の社会人（成人）にも学習の場を提供する様々な仕組みがある。これらの取り組みに加え、2004（平成16）年度からは、香川大学と香川県教育委員会との協定に基づき、かがわ県民カレッジ研究・実践講座が香川大学において開講されることとなった。

「かがわ県民カレッジ」は、県民に現代的課題に関する生涯学習の機会を提供するため、2001（平成13）年度から香川県教育委員会生涯学習課により実施されてきた事業であり、基本的な学習を行う基本講座、基本講座の発展学習を行う専門講座、そして、指導者としての専門知識などを身につける研究・実践講座の3段階に分かれている。同カレッジは地域における生涯学習の指導者養成を目的に掲げているものの、学習時間や学習内容等の専門性が十分であるとは言い難く、指導者としての質を高めるプログラムの必要性が課題となっていた。そこで、大学の専門授業を活用した学習内容の充実と公開講座を利用した学習支援方法の獲得とを二大柱とした研究・実践講座を実施することとなった。

これを図示したのが、図1（2005（平成17）年度の例）である。はじめの2段階である基本講座と専門講座は香川県教育委員会が、研究・実践講座は香川大学が担当している。なお、修了者は「かがわ県民カレッジマスター」（以下、カレッジマスター）と称し、各種講座などにおいて指導的な立場で活動することとなっている。

香川大学で開講される研究・実践講座の具体的方法であるが、原則として各学部で開設されている専門科目にかがわ県民カレッジ研究・実践講座受講生（以下、カレッジ生）を受け入れる、「公開授業」という形を取っている。ただし、公開授業だけでは補えない部分については、別途生涯学習教育研究センターで実施している公開講座をかがわ県民カレッジ研究・実践講座として位置付けることも行っている。

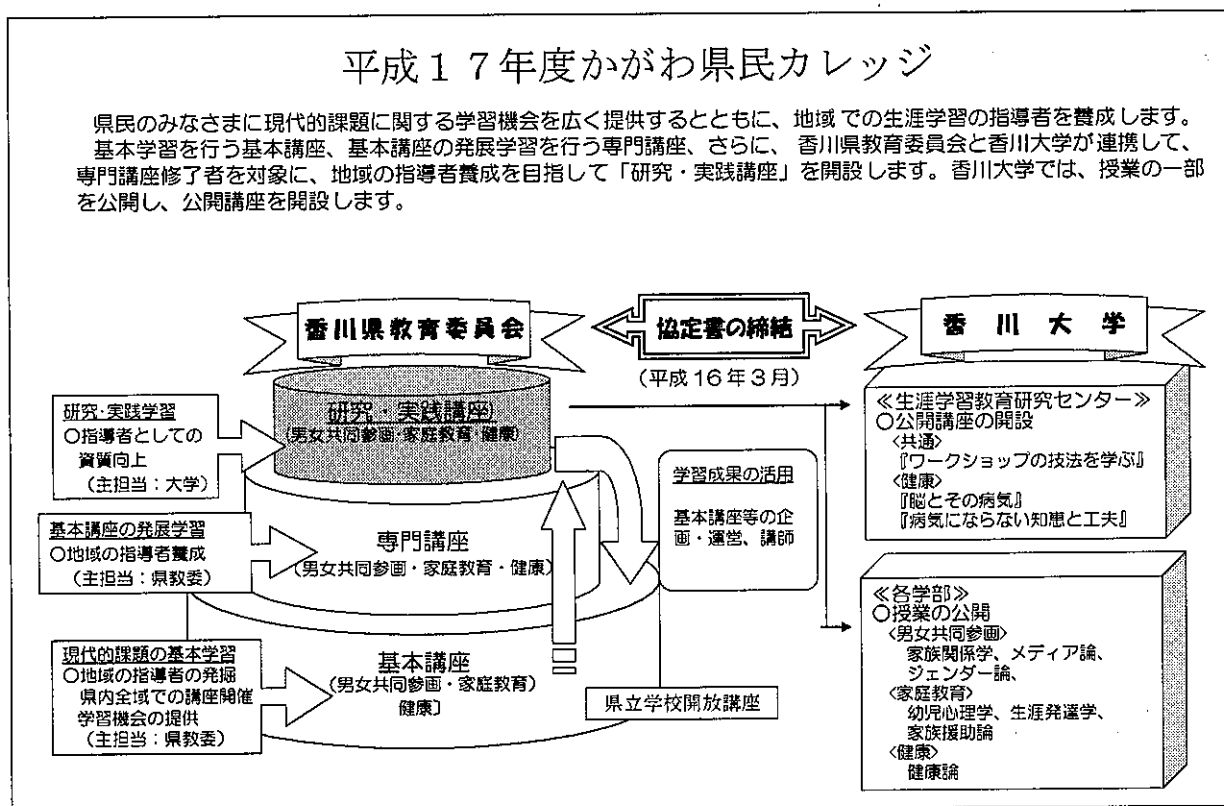


図1 かがわ県民カレッジ概念図

従来から取り組まれてきた公開講座や科目等履修生制度との相違点を整理すると、以下のようになる。

- ・ 公開講座もかがわ県民カレッジ研究・実践講座の公開授業も単位取得を目的としていない点では同様であるが、公開講座は生涯学習教育研究センターが一般学生以外の小中高高校生や社会人向けに特別に企画する講座であるのに対し、かがわ県民カレッジ研究・実践講座の公開授業は一般学生対象に通常実施されている学部専門科目を学生に混じって一緒に学ぶ講座である。
- ・ 科目等履修生もカレッジ生も一般学生対象に通常実施されている授業を学生に混じって一緒に学ぶ点では同様であるが、科目等履修生が単位取得を目的としているのに対し、カレッジ生は単位取得ではなくカレッジマスターの称号取得が目的である。

かがわ県民カレッジ研究・実践講座の2004年度と2005年度の実績については、表1を参照のこと。2004年度は「家庭教育」「男女共同参画」の2つのテーマのうちいずれかを選び、当該テーマの講座および共通科目の中から2講座以上を選択することが求められた。2005年度は、共通科目は廃止され、「家庭教育」「男女共同参画」「健康」の3つのテーマのうちいずれかを選び、当該テーマの中から2講座以上を選択することとなった。<sup>2)</sup> なお、両年度とも「ワークショップの技法を学ぶ」は、カレッジ生が今後指導者として活躍するための必須の方法を学ぶために必修科目とした。また、2005年度には、前年度のカレッジ生の声を受けて、選択科目として「レポート・小論文の書き方講座」を新たに設けた。

当初、かがわ県民カレッジ研究・実践講座の講習料は香川大学生涯学習教育研究センター規則の公開講座講習料規定に準じて決められていたが、本事業の公共性に鑑み同規則を改訂し、公開講座講習料規定(同規則別表1)とは別に、かがわ県民カレッジ研究・実践講座の講習料規定(同規則別表2)を新たに策定した。これにより2005年度の講習料は2004年度のおよそ6-7割程度に抑えられることとなった。<sup>3)</sup>

表1 かがわ県民カレッジ研究・実践講座実施一覧表

<2004年度>

テーマ	公開授業・公開講座名	担当教員(所属)	曜日・時間	時数	学期	講習料	人数
必修科目	ワークショップの技法を学ぶ <sup>*1</sup>	清國祐二(生センター) 他1名	木 3・4限	15時間	後期	7,200円	15名 <sup>*3</sup>
共通科目	家族関係学 <sup>*2</sup>	時岡晴美(教育)	火 2限	15時間	前期	7,200円	18名
	メディア論	武重雅文(教育)	金 2限	15時間	後期	7,200円	10名
家庭教育	幼児心理学	田中吉資(教育)	月 3限	9時間	後期	6,200円	10名
	健康	藤元恭子(教育)	木 2限	9時間	後期	6,200円	8名
男女共同参画	労働者保護法	緒方桂子(法)	月/木 1限	18時間	後期	8,200円	5名
	ジェンダー論	加野芳正(教育)	木 3限	13.5時間	後期	7,200円	12名
合計							78名

<2005年度>

テーマ	公開授業・公開講座名	担当教員(所属)	曜日・時間	時数	学期	講習料	人数
必修科目	ワークショップの技法を学ぶ <sup>*1</sup>	清國祐二(生センター)	月 3・4限	15時間	前期	5,000円	18名 <sup>*3</sup>
選択科目	レポート・小論文の書き方講座 <sup>*1</sup>	清國祐二(生センター)	木 2・3限	8時間	前期	3,000円	14名
家庭教育	幼児心理学	川田 学(教育)	月 3限	9時間	後期	4,000円	5名
	家族援助論	上玉啓子(教育)	水 2限	9時間	後期	4,000円	5名
	生涯発達心理学	中塚勝俊(教育)	金 4限	13.5時間	後期	5,000円	5名
男女共同参画	家族関係学	時岡晴美(教育)	火 2限	12時間	前期	5,000円	9名
	ジェンダー論	加野芳正(教育)	木 2限	12時間	後期	5,000円	8名
	メディア論	武重雅文(教育)	金 2限	13.5時間	後期	5,000円	3名
健康	健康論	上杉正幸(教育)	月 2限	15時間	後期	5,000円	3名
	病気にならない知恵と工夫 <sup>*1</sup>	石田俊彦(医) 他5名	木 夜間	9時間	後期	7,000円	2名
	脳とその病気 <sup>*1</sup>	板野俊文(医)	金 夜間	8時間	後期	5,000円	0名
合計							72名

※1 公開講座として企画したものを、かがわ県民カレッジ研究・実践講座として位置付け実施されたもの。これらの講習料は、香川大学生涯学習教育研究センター規則の公開講座講習料規定(別表1)に基づき設定されている。

※2 当初は公開授業の予定だったが、学部学生の履修希望者が0名だったため、公開講座として実施された。(2005年度の家族関係学は予定どおり公開授業として実施。)

※3 必修科目である「ワークショップの技法を学ぶ」の受講人数を足しても33名にしかならないが(調査対象者は53名)、これは2003年度に香川大学生涯学習教育研究センターと香川県教育委員会の主催により実施した「かがわ県民カレッジフォローアップ講座」(対象:かがわ県民カレッジ専門講座修了生)の受講者は当該科目の履修が免除されているためである。

## Ⅱ 『香川大学社会人学生のキャンパスライフに関する調査』について

### 2-1. 調査の目的

2006（平成18）年度以降、かがわ県民カレッジは再編を予定されており、あわせて研究・実践講座のあり方も検討されている。学内教員に対しカレッジ生の実態および彼らが香川大学に期待するものを明確にすることで同事業への更なる協力を得ること、そして同事業の改善、ひいては香川大学を地域の生涯学習施設としてより一層活用させる方策を探るための基礎的データとして用いること目的としている。

質問紙作成にあたって、前半の「カレッジ生の実態」については、一般学生との比較を行うため、香川大学による『平成15年度学生による授業評価報告書』（以下、『授業評価』）や『第9回学生生活実態調査報告書；平成16年度』（以下、『生活実態調査』）を参照した。また、後半の「カレッジ生にとっての大学」については、大学で学ぶ社会人（成人）学生に関する先行研究（小池2002、小池・志々田・佐々木2002、小池・佐々木2004）を参考にした。

### 2-2. 調査の概要

本調査の実施期間、対象、方法、有効回収数は以下の通りである。

調査実施期間：2006年1月30日～2006年2月13日

調査対象：2004年度カレッジマスター取得者、および2005年度カレッジマスター取得予定者、計53名（悉皆調査）

調査方法：郵送調査法（ただし2005年度の一部カレッジ生については、講座当日教室で配布し、後日教室にて、または郵送により回収した。）

有効回収数：42名（回収率79.2%）

なお、本調査の計画段階では、香川大学で学ぶ社会人学生の多様な姿を捉えるため、カレッジ生に加え地域マネジメント研究科の学生を対象とする予定だったが、諸般の事情によりカレッジ生だけの調査となったこととお断りしておく。

## Ⅲ 調査結果

Ⅲ章では調査結果の概要について紹介する。

なお、本稿末尾の Appendix A には、全ての単純集計データと、個人が特定される情報を除いた上で本事業に直接関係がある自由記述データを掲載している。そちらもあわせて参照して欲しい。

### 3-1. カレッジ生の属性

カレッジ生の属性は表2のとおりである。

性別では女性が圧倒的に多く（85.7%）、年代では50代以上が4分の3を（76.2%）、60代以上が半数弱を（47.6%）占めている。最終学歴では高校（旧制中学等を含む）および短大・高専が拮抗しており（それぞれ35.7%、33.3%）、大学はやや少なめ（23.8%）である。また、就労形態では、仕事に従事していない、その他がいずれも3割強（各31%）であり、フルタイムやパートタイムで働く人はあわせて4

割弱（あわせて38%）となっている。<sup>4)</sup>

表2 カレッジ生の属性

性別	人数	%
男性	6	14.3
女性	36	85.7
合計	42	100.0

最終学歴	人数	%
高校（旧制中学等を含む）	15	35.7
短大・高専	14	33.3
大学	10	23.8
その他 <sup>※1</sup>	3	7.1
合計	42	100.0

※1 最終学歴の「その他」は  
専門学校、短期大学校、不  
詳。

年代	人数	%
30代	2	4.8
40代	8	19.0
50代	12	28.6
60代	14	33.3
70代以上	6	14.3
合計	42	100.0

就労形態	人数	%
フルタイム	8	19.0
パートタイム	8	19.0
仕事に従事していない	13	31.0
その他 <sup>※2</sup>	13	31.0
合計	42	100.0

※2 就労形態の「その他」は  
ボランティア活動、行政委  
嘱委員、個人塾など。

### 3-2. カレッジ生の実態

#### 1) 教員の熱意 (図2)

教員の教育に対する熱意については、回答者のうち1名を除いて「大いに感じられた」または「おおむね感じられた」と答えており、熱意はおおむね伝わっていたようである。

また、「大いに感じられた」を5点とし、以下「おおむね感じられた」（4点）、「どちらともいえない」（3点）、「あまり感じなかった」（2点）、「全く感じなかった」（1点）として平均値を計算すると4.5点となる。【授業評価】によると、同じ質問に対する2003（平成15）年度前期・後期の教育学部生<sup>5)</sup>の得点が4.19点となっており、カレッジ生の方がやや高めの評価になっている。

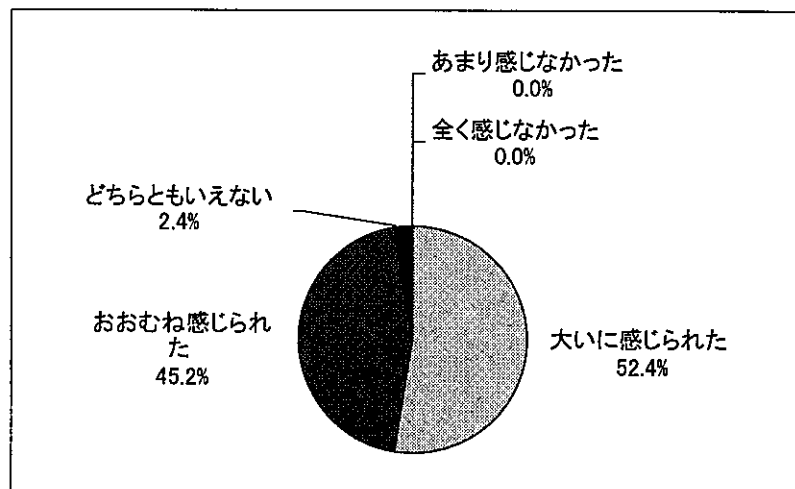


図2 教員の熱意

（ただし、教育学部生は各授業に対する授業評価を合計したものであるのに対し、カレッジ生への質問は複数の授業を全体的にどのように評価しているかという総合的なものである。）

2) 講座内容の理解 (図3)

講座内容の理解についても、1名を除いて「よく理解できた」「おおむね理解できた」と回答しており、カレッジ生にとっておおむね理解できる内容であったことが伺われる。

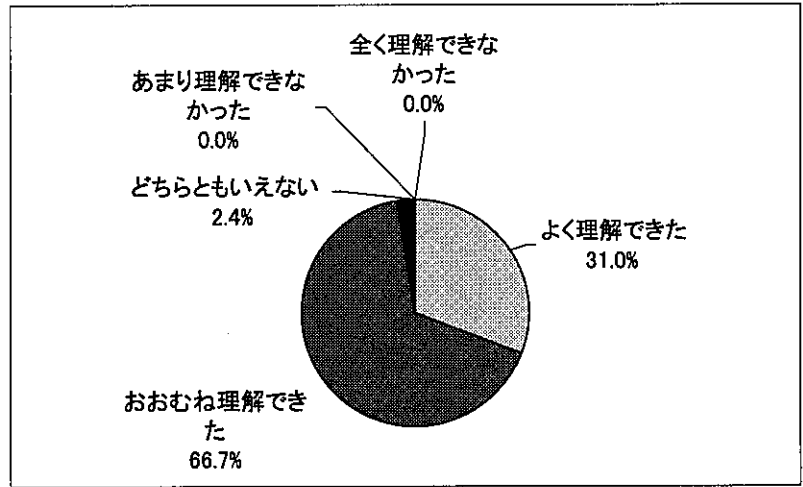


図3 講座内容の理解

3) 出席率 (図4)

8割以上 (83.3%) のカレッジ生が「90%以上出席」と答えている。

なお、『生活実態調査』によると、カレッジ生の出席率は教育学部生とほぼ同程度であることがわかる。

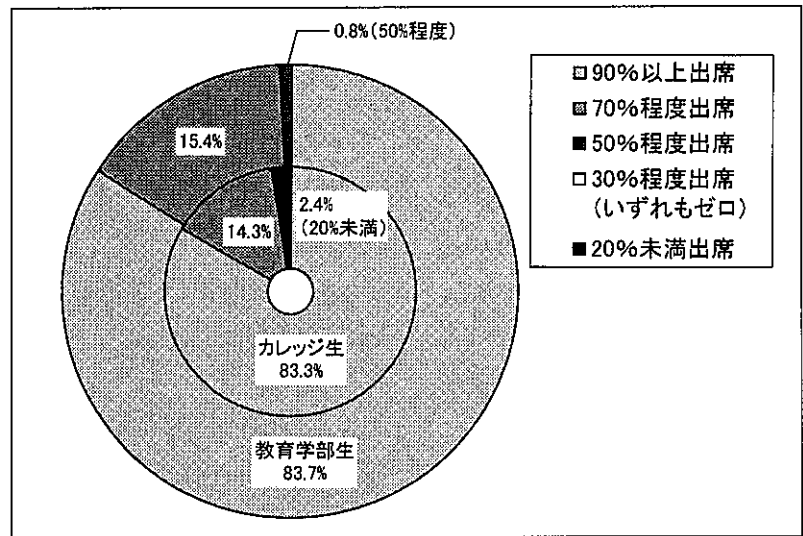


図4 出席率

4) 欠席理由 (図5)

講座を欠席する主な理由を3つまで選択してもらったところ、「仕事」「家事・育児・介護など家庭の事情」「地域活動」「病気・怪我」に集中した。なお、「その他」の具体的内容は、出席率100%なので該当しない、交通手段の運行停止、他の講座と重なった、などである。

『生活実態調査』の選択肢とは異なるが、同調査では「朝寝坊」「病気・怪我」に次ぐ欠席理由の第3位であった「意欲がわからない」や、同4位の「授業がつまらない」はカレッジ生では回答者数がゼロであった。

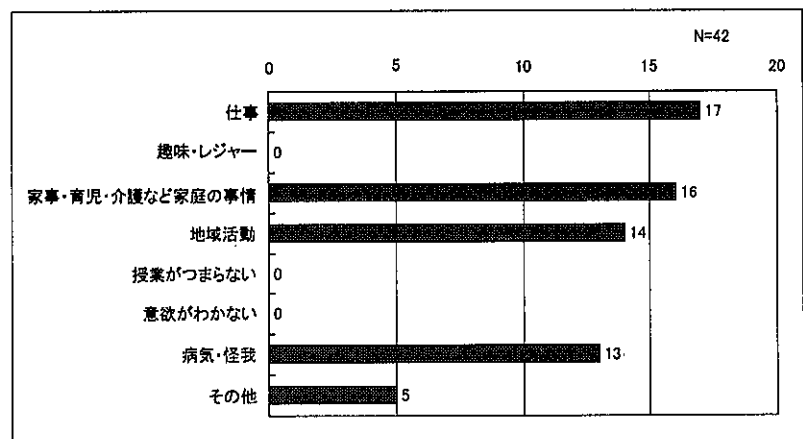


図5 欠席理由

5) 講座外での1日平均学習時間 (図6)

「1時間未満」が半数弱 (48.8%) であり、「ほとんどしない」とあわせると、全体の3分の2程度のカレッジ生が1時間未満の学習時間である。一方、4分の1強 (26.8%) のカレッジ生は「1時間以上3時間未満」の学習をしており、「3時間以上」と答えたカレッジ生も7.3%いる。

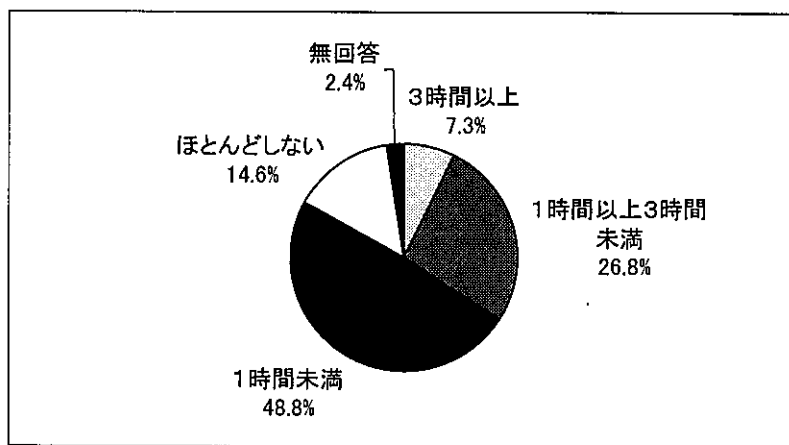


図6 講座外での1日平均学習時間

参考までに、選択肢は異なるが『生活実態調査』の結果を挙げてお

くと、教育学部生の授業以外での勉強時間は「ほとんどしない」が48.8%、「1時間以上 (2時間程度まで)」が30.1%、「2時間程度」より多い回答が21.1%である。

6) 香大図書館の利用 (図7)

香大図書館については7割強 (71%) が「利用しなかった」と回答している。カレッジ生のオリエンテーションでは図書館利用について周知しているが、活用されているとはいえない実状である。

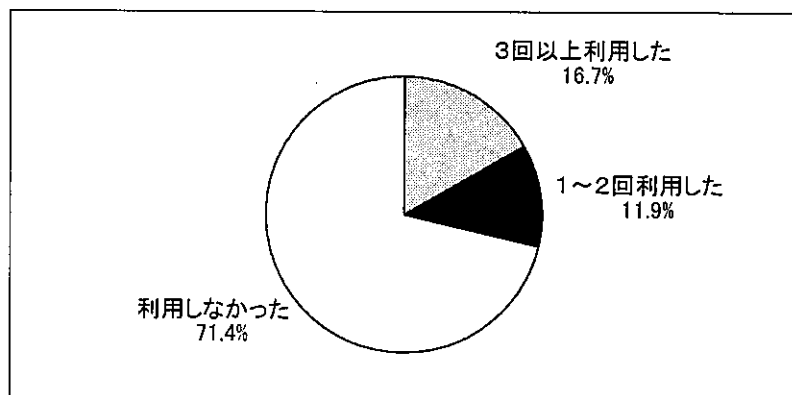


図7 香大図書館の利用

参考までに、選択肢は異なるが『生活実態調査』の結果を挙げておくと、教育学部生の図書館利用頻度は「ほぼ毎日」2.4%、「週に1~3日」21.1%、「月に1~2日」36.6%、「ほとんどない」39.8%である。

7) 教員、カレッジ生、一般学生との交流について (図8~10)

教員、カレッジ生同士、一般学生との交流について聞いたところ (図8)、交流の頻度に関してはカレッジ生同士は「相当頻繁に交流」「ある程度交流」(あわせて51.2%)と「ほとんど交流なし」(48.8%)が約半々で拮抗しているものの、教員や一般学生とはほとんど交流がない (対教員85.7%、対一般学生90.5%) のが現状である。

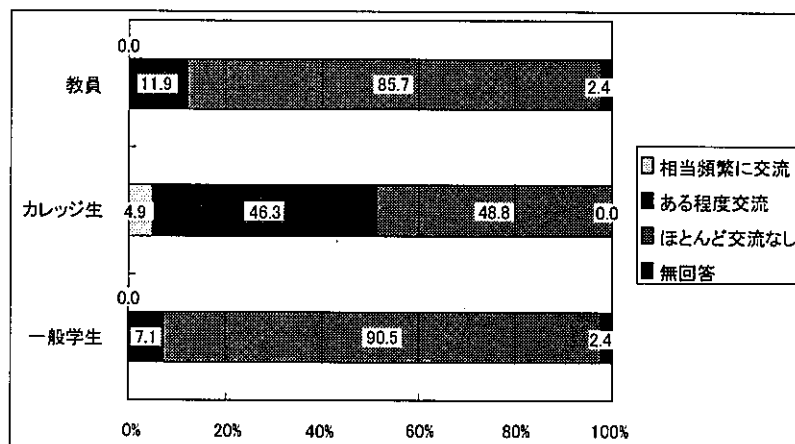


図8 交流の頻度

それに対して満足度を聞いたところ（対教員、カレッジ生同士のみ。図9）、対教員では「どちらともいえない」が6割強（61.9%）を占めている。4分の1強（26.2%）のカレッジ生は「どちらかという満足」しており、「どちらかという不満」「不満」はあわせても1割強（11.9%）である。なお、参考までに『生活実態調査』によると、教育学部生は教員との交流について、「満足」8.9%、「どちらかという満足」30.9%、「どちらともいえない」45.5%、「どちらかという不満」11.4%、「不満」3.3%である。（ただし教育学部生の場合、満足度のみ調査であり、交流の頻度については不明。）

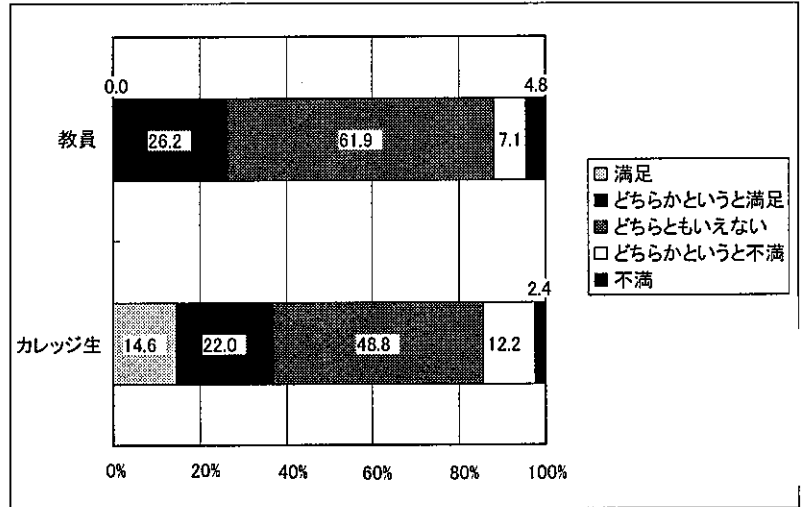


図9 交流の満足度

一方、カレッジ生同士に関しては、「どちらともいえない」が半数弱へと減り（48.8%）、かわりに「満足」「どちらかという満足」があわせて3分の1強（36.6%）と増えている。しかし、同時に「どちらかという不満」「不満」もあわせて14.6%と微増している。

対教員、カレッジ生同士いずれを見ても、「どちらともいえない」の占める割合が高いのはなぜだろうか。後に見るとおり（3-3の図13、表3）、カレッジ生は大学で学ぶに際し「人と知り合ったり、社会とのつながりをもつこと」を求める割合が比較的高いのであるが、どの程度の交流があれば良いと考えられるのか回答者自身もわからず、とりたてて満足しているわけではないが不満でもないという回答が多いのではないと思われる。<sup>6)</sup>

ところで、一般学生とどの程度の交流を望むか聞いてみたところ（図10）、「頻繁な交流が望ましい」「時々交流が望ましい」があわせて85.7%にものぼった。「時々」が8割弱であることを考えると、それほど頻繁な交流は望んでいないにせよ、後に自由記述で見るとおり（3-3、3-4）、若い一般学生からの刺激を求める声も挙がっており、交流の工夫は必要と思われる。

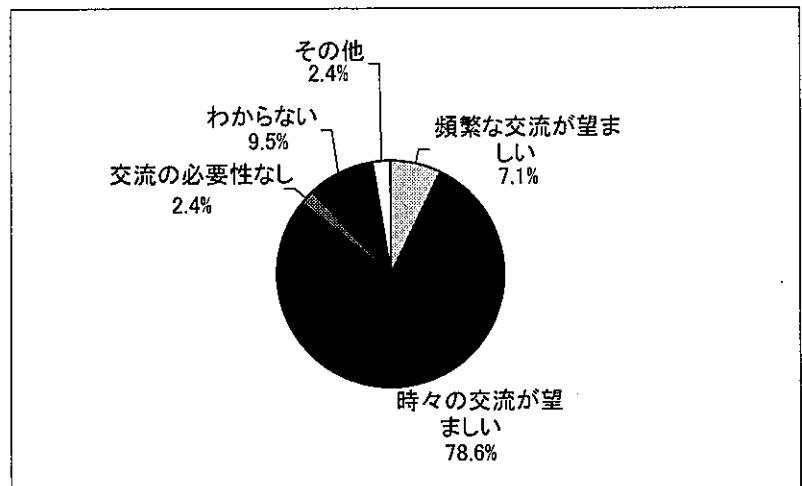


図10 一般学生との交流希望

#### 8) 周囲の協力 (図11)

カレッジ生が香川大学で学ぶことに対して、周囲はどの程度協力的であるか聞いたところ、職場の上司や職場の同僚については「該当者なし」「無回答」があわせて3分の2（いずれも66.6%）と多数を占め、「大いに協力的」「ある程度協力的」の割合は全体比で見ると多くはない。しかし「該当者なし」「無回



答」を除く14名に注目してみると、「大いに協力的」「ある程度協力的」が職場の上司の場合は10名、職場の同僚の場合は8名となっている。

一方、家族はどうだろうか。属性のところでも見たとおり、カレッジ生は比較的高齢の方が多いせいか、家族（親）に関しては、職場の上司や同僚と同じく「該当者なし」「無回答」があわせて半数を占めている。しかし、残りの半数（21名）に注目してみると、「大いに協力的」「ある程度協力的」が15名となっており、その21名の中では7割強が「協力的」と答えていることになる。（全体比で見ると図11のグラフの通り3分の1強（35.7%）が「協力的」である。）

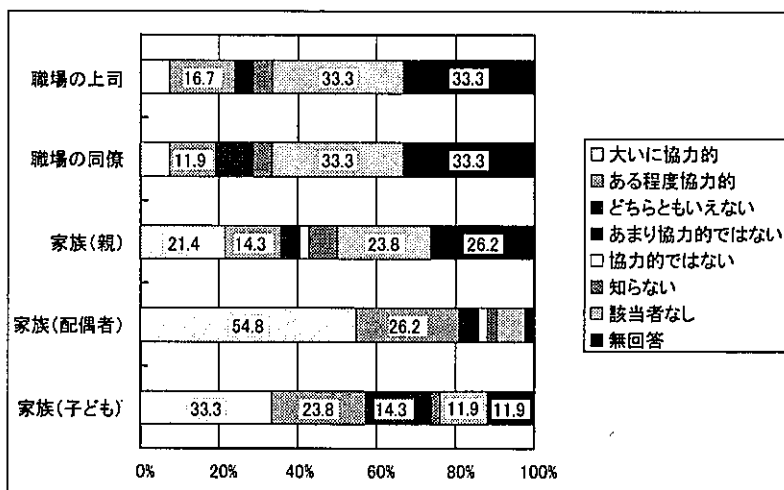


図11 周囲の協力

※値は%。グラフでは10%を超えた値のみを記載。

さらに家族（配偶者）では「大いに協力的」「ある程度協力的」があわせて8割強（81%）となっており、配偶者から協力を得られているカレッジ生は多い。家族（子ども）では「該当者なし」「無回答」が4分の1弱（23.8%）を占めるものの、「大いに協力的」「ある程度協力的」があわせて6割弱（57.1%）となっている。

### 9) 全体的満足度 (図12)

カレッジ生は、香川大学における経験に4分の1弱（23.8%）が「非常に満足している」、6割弱（57.1%）が「やや満足している」と答えており、あわせて8割強（81%）が満足しているようである。

また、「非常に満足している」を5点とし、以下「やや満足している」（4点）、「どちらともいえない」（3点）、「やや不満である」（点）として平均値を計算すると4.0点となる。図12は、過去に大学を経験したことがある大卒者（10名）と非大卒者（32名）の間に差が見られるかどうかを調べるため、クロス集計の上グラフ化したものであるが、平均値は大卒者4.1点、非大卒者4点であり、ほとんど差異はない。<sup>7)</sup>

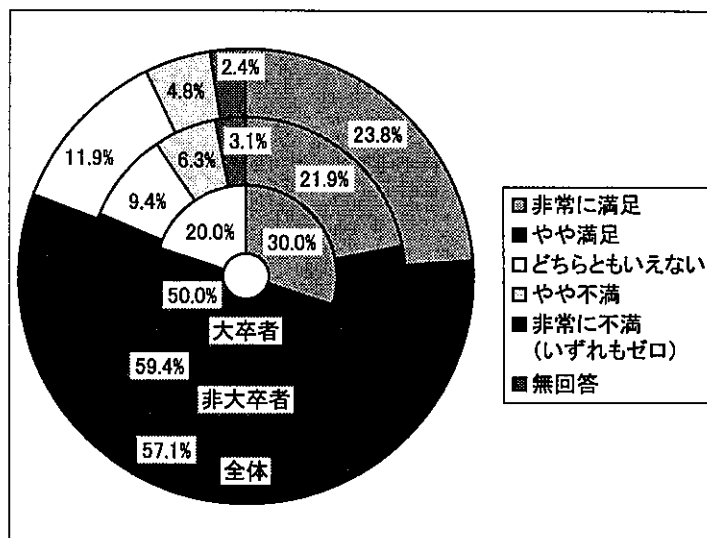


図12 全体的満足度

『授業評価』には同じ質問はないものの、各授業に対する総合的満足度に関する質問があるので参考までに挙げておくと、2003（平成15）年度前期・後期の教育学部生の得点は3.91点となっている。<sup>8)</sup>

3-3. カレッジ生にとっての大学

1) 当初の期待と達成度 (図13、表3)

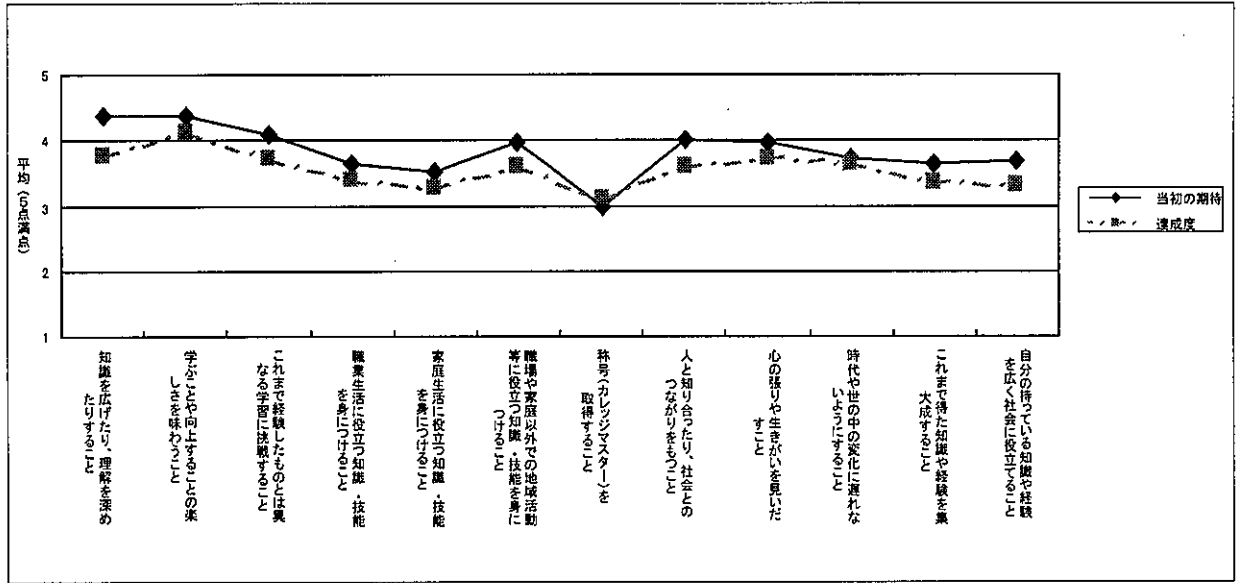


図13 当初の期待・達成度

表3 当初の期待・達成度 (表中、Aは当初の期待、Bは達成度)

志向	項目	A	B	A-B
学習志向	知識を広げたり、理解を深めたりすること	4.39	3.76	0.63
	学ぶことや向上することの楽しさを味わうこと	4.37	4.12	0.25
	これまで経験したもとは異なる学習に挑戦すること	4.07	3.71	0.36
目的志向	職業生活に役立つ知識・技能を身につけること	3.63	3.41	0.22
	家庭生活に役立つ知識・技能を身につけること	3.50	3.28	0.22
	職場や家庭以外での地域活動等に役立つ知識・技能を身につけること	3.95	3.62	0.33
	称号(カレッジマスター)を取得すること	2.98	3.10	-0.12
活動志向	人と知り合ったり、社会とのつながりをもつこと	4.00	3.61	0.39
	心の張り合いや生きがいを見いだすこと	3.98	3.71	0.27
	時代や世の中の変化に遅れないようにすること	3.71	3.63	0.08
結晶化志向	これまで得た知識や経験を集大成すること	3.66	3.37	0.29
	自分の持っている知識や経験を広く社会に役立てること	3.68	3.32	0.36

カレッジ生は何を期待してかがわ県民カレッジ研究・実践講座に参加したのだろうか。そして、その期待はどの程度達成したと自己認識しているのだろうか。

成人の学習目的については、志向性という概念を用いたフルール(Houle, C.O.)の3類型が知られている。学習そのものを追求する「学習志向」、他の目的を達成するための手段として学習を行う「目的志向」、学習活動が副次的にもたらすものの中に意味を見いだす「活動志向」の3つであるが、小池源吾は近年の教育老年学の知見を加味し、これまでに得た知識や経験を集大成したり活用するために学習を行う「結晶化志向」を加えた4類型を広島大学で学ぶ社会人(成人)学生の調査研究に用いている。本調査では、小池の分類をそのまま用い、ただし下位項目には若干の手を加え12の選択肢を設定した。<sup>9)</sup>

図13は、当初の期待に関しては「全く期待していなかった」(1点)から「大いに期待していた」(5点)の平均値を、また達成度に関しても同様に「全く達成されなかった」(1点)から「十分達成された」(5点)の平均値を算出し、双方を同一グラフ上に表したものである。(具体的な数値は表3に掲

載。)

当初の期待のうち平均値が高かった項目、すなわち期待が高かった上位4項目(4.0以上)は「知識を広げたり、理解を深めたりすること」「学ぶことや向上することの楽しさを味わうこと」「これまで経験したものとは異なる学習に挑戦すること」「人と知り合ったり、社会とのつながりをもつこと」である。このうち「人と知り合ったり、社会とのつながりをもつこと」を除く3項目はいずれも学習志向に分類される選択肢であり、カレッジ生の学習志向の高さが伺える。一方「称号(カレッジマスター)を取得すること」の期待値は唯一の2点台であり、他の選択肢と比べて低さが目立つ。カレッジマスターは、それを取ると地域での生涯学習指導者としての活躍の場が与えられることになるのだが、香川県教育委員会によるとカレッジマスター取得者のうち指導者登録を望む人が少ないという課題に直面しているとのことである。<sup>10)</sup> 本事業の目的とカレッジ生の意識との差異が、「称号(カレッジマスター)を取得すること」の期待値の低さとなってあらわれているということだろうか。しかし「職場や家庭以外での地域活動等に役立つ知識・技能を身につけること」に関しては比較的高い値を示しており、カレッジ生の地域活動への志向は読み取れるため、これは単に称号自体に興味がないだけということかもしれない。

達成度については、「学ぶことや向上することの楽しさを味わうこと」のみが4点台で、残りは軒並み3点台となっている。また、「称号(カレッジマスター)を取得すること」を除く全ての項目で、達成度は当初の期待を下回る結果となった。カレッジ生は当初期待していたほどには達成できなかったと感じているようである。とりわけ(当初の期待-達成度)の差が最も大きかったのは、「知識を広げたり、理解を深めたりすること」(差0.63)である。これは、カレッジ生の学習志向の高さの反面、後に見るように(3-4)、全15回の授業の全部ではなく部分公開であったため、(一般学生と同じように)もっと授業を受けたかったという思いが原因ではないかと推測される。

## 2) カレッジ生の大学イメージ(表4)

前回はあらかじめ設定した選択肢を選んでもらう形式だったが、カレッジ生の大学イメージをより詳しく知るために、あなたにとって「大学」(香川大学に限らず大学一般)とは何ですかと自由記述(3点以内)で聞いてみたところ、98通りの多様な回答を得ることができた。これをExcelと茶筌(形態素解析ソフト)を利用してキーワード分析をしてみた結果が表4である。(「自分」と「自己」など、文脈から判断して同一内容であると思われるものは同じキーワードとしてカウントした。<sup>11)</sup> なお、以下の記述において、

表4 大学イメージにおけるキーワード(3回以上)

出現回数	キーワード
21	知識
12	自分(自己/自分自身)
11	社会
9	得る
8	できる(出来る)
7	知的 学ぶ
6	交流(合流)
5	深める 身につける 専門 学習(学び)
4	思う 高める 挑戦する(チャレンジする/試す) 満たす 確認 好奇心 人生 友人(友・先輩・同輩・後輩/仲間/同胞) 勉強(勉学) 若者(若人/若い人/若い学生)
3	広げる 向上 探求 課題(問題) 基本(基礎) 技能(スキル)

て、表中に記載したキーワードは太ゴシック体、【】内は出現回数、「」はカレッジ生の記述の引用を表している。)

### ①知識/学習

頻出キーワードを見てみると、カレッジ生は大学を、知識【21】や技能【3】を得る【9】、学ぶ【7】、身につける【5】、学習【5】する、勉強【4】する場と捉えていることが分かる。「学習の場」「専門的な知識を得ることができる場」「知識、技能を身につける場」との端的な回答はもちろん、「知的好奇心を満た

す場」のような記述を含めて、前項で見たカレッジ生の学習志向の高さを改めて確認することができる。

そして、その学習においては、単に新しい知識等を得るにとどまらず、「今まで得た知識の確認の場」「経験・体験の確認の場」、あるいは「知識を高める場」「知識を深める場」という記述に見られるように、職業生活や日常生活の中で身につけた知識等を**確認【4】**する、**高める【4】**、**深める【5】**ことも求めているようである。

また、**できる（出来る）【8】**というキーワードからは、大学が他では不可能なことを可能にする場であるというカレッジ生の思いが読み取れるのではないだろうか。

## ②交流/自分・友人・社会

カレッジ生は「自己発見。自己確認。自己実現の場」「自分をみがく場所」に見られるように自分**【12】**への関心が高い一方、大学を**交流（合流）【6】**や**出会いの場**としても捉えていることも分かる。それは友人（友・先輩・同輩・後輩/仲間/同胞）**【4】**というキーワードや、「意見交換の出来る場所」「他者に学ぶ場」「自分と異なった人達とのつながりの場」のような記述からも読み取れよう。

大学の中における交流を越えて、さらに大学を**社会【11】**とのつながりで見ていることも、社会というキーワードの出現回数から見て取れる。曰く「**社会に役立つ知識を身につける場**」「**専門的な勉学をし社会に貢献できる様する場**」などであり、自分への関心が社会から閉じたところにあるのではなく、社会とのつながりの中にあることが分かる。

## ③若さ

「若い学生を肌で感じる場」「若い人との合流によって彼等の考へをしる場」「若者の情熱を感じる」となど、**若者**に関連する語彙**【4】**も複数見られるが、これは社会人向けに計画された公開講座とは違い、一般学生と席を並べて学んだカレッジ生ならではの意見であろう。（若い教員に学んだことも理由に挙げられるかもしれない。）同様の記述として「2世代の考えのきわめて大きい事を気付く」「自分が若<sub>が</sub>えられる場」なども見られ、一般学生（あるいは若い教員）がカレッジ生に与える刺激や影響は大きいようである。それゆえ、「いろんな世代との交流などもあればよい」という要望が生じるものと思われる。

## ④挑戦する人生

また、「自分自身に挑戦する場」「社会に挑戦する場」「人生の可能性を試す場」、あるいは「脳<sub>の</sub>老いに勝ちたい願望の場」のような記述からは、**挑戦する【4】**場としての大学が読み取れる。そして「今後の人生の目標を持つ場」「生き方の幅を広げる場」という回答からは、大学は知識等を得ることに加えて、**人生【4】**や生き方を見つめる場としても考えられていることが分かる。

## ⑤非日常

一方で、表4にはあらわれていないが、少数意見として「砂漠の中のオアシスのような楽園」「日常を脱して一人の学生になれる場」のように、普段の生活とはひと味違う非日常を求める心境も垣間見られる。また、「知識の宝庫」「知恵の宝庫」に見られる宝庫という語彙からは、楽園という言葉同様ワクワク感が喚起される。

## ⑥その他

その他、「行ってたら楽しかったらと思う場」「大学にいけなかった人のための存在」という記述からは、大学進学率が50%を超える現在とは異なる時代に青春時代を送った世代の大学への憧れが感じられると同時に、様々な理由により大学に進学できなかった人のために、地域の生涯学習施設として大学は今後何ができるか、また、何をすべきなのか、考えさせられる。

### 3-4. カレッジ生の目から見た香川大学～自由記述の分析を通して～

カレッジ生は香川大学を観察する人々でもある。完全自由記述形式の設問への回答から、カレッジ生の本事業に対する意見・感想（①学習の深まり、②レポート、③一般学生との交流、④部分公開、⑤その他）と、香川大学に対する意見・感想（①教員、②一般学生、③環境・設備）、その他に分けて紹介する。

なお、設問は問21「昨年あるいは今年の香川大学での一連の経験で、何か不都合を感じたり、あるいは戸惑いを覚えたりしたことはありませんか。」、問22「その他、あなたが香川大学について感じておられることをご自由にご記入下さい。」である。両者に対する回答には重なりが見られたため、区別して論じることとはせず、引用末尾の〔問21〕〔問22〕によってどちらの設問への回答かを記すにとどめた。また、引用は原則原文そのままだが、誤字脱字に関しては読みやすさを考え、筆者の判断により文字を削除・訂正・補足した部分もある。

#### 1) かがわ県民カレッジ研究・実践講座について

##### ①学習の深まり

最初に、本事業がカレッジ生の学習を深めるきっかけになったことが、自由記述を通して分かる。

- ・授業を契機として、本を読む、新たにインターネット検索を屢々使い知識を深められた。〔問21〕
- ・六法を開き「この問題は法的にはどんなに定めているかなあ」と思ふことがあっても六法を開くのが煩わしくこそ思ふばかりであったが何はともあれ六法に直ぐに手が出せる様になった（後略）。〔問21〕

さらに、より一層の学習を進めるためのアドバイスを求める声も見られ、担当教員それぞれの改善が望まれるところであろう。

- ・参考図書などを紹介してくれるとありがたかった。〔問21〕
- ・これからもう少し深めて学びたいとき、どんな方法があるのか教えていただけるとうれしいです。〔問21〕
- ・若いお母さんに心（精神）の強いしっかりした考えを持てる子供達をそだててほしいのですが、そのアドバイスをするには、どんな勉強をしていったらいいのか、知りたいし学びたいです。〔問21〕

##### ②学習方法（レポート）

学習の深まりは、レポートによりさらに進んだようである。

- ・課題として『レポート』を課せられたがこれが又、忙しさの中でも新たなチャレンジとして学びを深化させていただいた。〔問21〕
- ・論文は大学、仕事、家事、育児にプラスされるので時間を取られて大変ですがインターネット等で調べることにより、知識が広がりました。〔問21〕

大学教員はレポートを当然のように課すが、一方で次のような意見があったことも紹介しておかねばならない。

- ・ すごく初歩的な事なのですが、レポートってどんな用紙に書いたらいいのかわかりませんでした。字数を指定されたので、字数の分かり易い紙に書くのかな…などちょっと恥ずかしくて聞きにくかったです。 [問21]
- ・ いざレポートを書くとなると、書き方に悩みました。 [問21]

上記のような意見は、一般学生も抱えているかもしれないが、見過ごされがちである。当たり前とされてきた“慣行”に対しても、少し立ち止まってチェックしてみることが必要かもしれない。

それは、次のような「提出されたレポートのその後」に対する意見にも共通の問題であろう。

- ・ 提出したレポートを返さないのが今の方式のようですが、これはやはり粗末ながらも相当の時間を擁して書いた者にとっては、いかななものかと考えます。改善の朗報がきかれる日の早からんことを祈るものです。 [問21]
- ・ 社会人受講者のレポートについて、出来れば公表していただけないだろうか。お互いの勉強になる。教授がチェックされた後、期日を決めて生涯学習センター（6F）のロビーで読ませていただけないだろうか。 [問22]

### ③一般学生との交流

3-3. 2) で述べたことと重なるが、「交流」「若者」は自由記述欄でもキーワードとして頻出する。

- ・ 若い人達と机を並べて学ぶという事が出来ただけで、本当に若い人のパワーをいただき、またいろいろな人達と出会えて良かったです。 [問21]
- ・ 学生さん達と授業を受ける機会が持てたことは、若い人の頭のやわらかさを教わり自分で経験した事で決めつけている様に思い、今後いろんな方面から物事を見てやわらかく考えてゆこうと。 [問22]

上記のようなコメントに見られるように、また、本稿で今まで述べてきたことから明らかなように、若い一般学生と一緒に学んだことはカレッジ生に刺激を与えたようである。とはいえ、「机を並べて学ぶ」といっても、その内実は様々である。一般学生が何を考えているのか具体的に理解できた場合は、より大きな満足感を得ることとなったようである。

- ・ 意図的に学生とのかかわりを持たせて下さり、若い人達の考えなどよく理解出来、若い人達を見直す機会にもなり非常に有意義でした。 [問21]
- ・ 香大に出入りする事で学生達の様子も少し発表意見を聞いて理解できた。今の若い人達はこう考えるのだ!! (中略) とても良い出会いの時間でした。 [問21]
- ・ 学生さんのレポートを教授が読まれた事があるが、立派な内容で社会人組は感心した。 [問21]

反対に、一般学生の意見がカレッジ生に届かなかった場合は、失望をもたらしたようである。

- ・学生とも交流する場があれば、互いの見方がわかっていいと思う。〔問21〕
- ・学生と同じ教室で学べることは驚きとともに何かあるのではないかと期待もしていたが最期まで学生との関係は希薄であったことが残念です。今後、学生との距離が縮まるような講義内容を加えていただけたとうれしく思います。〔問21〕
- ・ワークショップ形式で出席者と議論しながら勉強出来たらいいなあと思っています。〔問21〕
- ・学生さん達との公開学習については授業に対してほとんどの学生さん達の反応が感じとれないほど静かでこんなものかと戸惑いを覚えた。でも人間だから何かは感じているだろうしそんな生の声をもっともっと聞けるかと楽しみにしていたが、その点はちょっと失望。〔問21〕
- ・学生達が大人しいのが気掛かりな点。声が小さくて何故だろう？自分から意見や質問をするような学生には一人も出会わなかった。指名されると小さな声で何か発言するがよく聞こえない。〔問22〕

授業内容によって効果的な方法は異なるので一概に述べることは難しいものの、カレッジ生は一般学生との交流を（程度の差はあれ）望んでいることは間違いなく、授業を組み立てる際にそのことは念頭に置いておくことが必要と思われる。

なお、一般学生ではなく教員との交流についても下記のような意見があったので紹介しておく。

- ・香川大学に限らず、これからの大学は、地域に開かれたものとするならば、一般人といろいろな経験をされた方々と、先生方も交流し、話し合いの場をつくって、お互いに学び合うということもなさったらどうかなとも思っています。〔問22〕

#### ④部分公開について

全15回にわたる学部専門授業のうち、全てではなく6～12回分を公開することとした背景には、講習料負担の問題があった。カレッジマスター取得のためには最低3講座を履修する必要があり、全15回を公開すると、合計で最低27,600円（1講座あたり9,200円）となるため、受講者に相当な負担となってしまう。部分的な公開となったのは回数を少なくすることで講習料負担を低く抑えるという事情があったのだが、部分的にしか参加できないことは一部カレッジ生にとって不満だったようである。

- ・大学の学生さんたちの授業に途中から参加でしたのでその日その日の授業内容は理解したつもりでも先生の意図されている一連のテーマのなかで理解されたのではなくこま切れになっているのでは…という印象をもっています。（中略）何となくそこに不安感をもちました。〔問21〕
- ・学生の方たちと授業がいっしょにうけられて、おもしろかった。でも、私たちは途中までしか受けられず残念でした。〔問21〕
- ・本当に1つのテーマについて理解しようとするなら時間数が少なすぎる。〔問21〕

しかし、はじめにでも述べたとおり、地域の指導者養成という公共的使命を担う事業であるということ配慮して、香川大学生涯学習教育研究センター規則を改訂し、講習料を低く抑えることができるように

なった。2006年度以降は原則全15回を通して受講してもらう予定である。<sup>12)</sup>

#### ⑤その他

その他、本事業に対しては下記のような意見も出されたので紹介しておこう。

- ・講義を土、日に集中して行ったり、夕方の講義時間を増やして欲しい。 [問21]
- ・大学（香川大学）も現状の手続きの面倒さ、単位制をどうか撤廃して自由な（単位取得、資格なし）受講制度にしていだけないものかと切望いたしております。 [問22]

### 2) 香川大学の教員、一般学生、設備・環境について

#### ①教員

教員も一般学生同様、カレッジ生にとっては出会いの対象である。

- ・若い先生（私より）に教わる事、魅力一杯です。この出逢い（中略）こそ大事。 [問21]

そうして出会った教員に対しては、

- ・香川大学の先生方は旧国立のプライドを強くもち、そして地方の特殊性（他に大学がない）から閉鎖的な感じを強く受けます。 [問21]

という意見も出たものの、以下のコメントに見るように、カレッジ生には概ね良い印象を持たれたようである。

- ・長い間授業というものをうけていないので、ついていけるかどうか心配だったが先生方も社会人聴講生ということを配慮して下さり、とても楽しく受講出来ました。 [問21]
- ・不勉強の自分のつまらない質問に対して毎回丁寧なご回答を戴き有り難かった。 [問21]
- ・授業内容については、よかったし、講師（教授）が工夫していることがよくわかった。 [問21]
- ・教育者としても人間的にも尊敬できるすばらしい先生だと感じました。（中略）学生の立場、受講者の気持ち、社会、世間がお分かりになる先生だと拝しました。 [問21]

#### ②一般学生

教員以上にコメントが多く、評価が両極に分かれたのが、学生に対する見方である。

- ・若い学生諸君が実に排他的なところが少しもなく実に気持良かった。 [問21]
- ・学生さんは熱心に講義をうけていた。 [問22]
- ・生徒もがんばろうという姿勢もみえて感心しています。 [問22]

上記のような肯定的評価がある反面、マナーに対する厳しい意見も相次いだ。



- ・遅刻してくる生徒が多くて戸惑いました。 [問21]
- ・学生は、しんしに授業を受けていない。もっと授業を受ける態度を指摘すべきである。受講をさせず退室させるなど。 [問21]
- ・学生の（特に男子）先生に対して尊敬をもっていない様に思った。言葉使い□友達に云う様に言ってみたり（中略）。然し女生徒はきちんとした言葉使いをしていました。 [問21]（□は判読不明）
- ・香大生だから頭は皆良いのですが、マナーのないのに驚き、呆れました。 [問21]

一方で、先に見たように学生との交流を望む声は高く、実際に学生の意見に感心することもあり、これらの指摘は香大生への期待の高さゆえの辛口コメントと受け取るのが良いのではないだろうか。

ところで、成人が学びを続けることの困難さは様々なところで指摘されており（小池2002；65-66、等）、次のような一般学生に対するカレッジ生からのメッセージは、きちんと伝えておきたいものである。

- ・勉強出来たこととてもよかった。しかし家事とか家庭の用事のなかの勉強は欠席せざるをえないこともありやはり勉強する年齢はあると思いました。香大生（今）がんばっていますがいま出来ることに感謝してもっとがんばって下さい。 [問21]

### ③環境・設備

学内の美化については、厳しい意見が相次いでいる。

- ・黒板を誰が消して新たに授業を受ける？ [問21]
- ・はじめて授業を受けた教室が散らかっていて学生さんたちは平気という姿にはショックを受けました。 [問22]
- ・校内が広いせいか、外回り、校舎（教室）の掃除が行き届いていない。（中略）学生は校舎、教室に無関心でいいのかと感じる。 [問22]
- ・構内の庭木の手入れがゆきとどいてないようである。 [問22]
- ・所どころにただ手の行き届かない隅々があるのは一寸気にかかる（時に学生達にボランティアで奉仕を進めて見てはどうか。予算厳しいと推察。心ある学生も必ずあると思います。） [問22]<sup>13)</sup>

一方で下記のような意見もあり、徐々に改善されているという見方もあるようだ。

- ・昨年と今年との違いは大学内が大変奇麗で気持ちがよい。整理整頓が正しく出来ているのにびっくりしました。食堂前、会館前の自転車の乱れが無い。 [問21]
- ・最近周辺住民が「キャンパス周辺が大分整備された」と喜んでます。 [問22]

また、大学の設備については、次のような意見も出された。

- ・施設設備（環境）をもっと良くして生徒に気持ちの良い授業を受講して貰いたい。（予算問題はありますが・・・） [問22]

- ・これからの入学生のためにはもう少し夢のある設備が必要だと思う。ただ勉学の設備ではいけないと思います。 [問22]

### 3) その他

上記には分類できなかったが、香川大学が2005年3月に打ち出した改革構想において掲げた「地域と共に歩む大学」「地域に根ざした大学」に対する評価もあったので紹介しておきたい。

- ・私自身は県民カレッジの講座を通して香川大学がとても身近に感じられ、教えていただいた先生が熱心な方だったのでとてもいい印象を受けました。 [問22]
- ・学生だけでなく（中略）各種講座または私が受けた専門講座の次の県民カレッジ研究・実践講座など市民に開かれた大学であると感じた。 [問22]
- ・企業や一般社会に目を向けて開かれた大学になりつつあるのではないかと感じています。地域に根ざした大学は、学びたい意欲のある者にとっては魅力のあることだと思います。少子化の中でこれからの大学のあり方が議論されていることと思いますが、地方にある香川大学だからこそできること。特色ある豊かな大学を望んでいます。学生と社会人学生が、ひとつのテーマで研究していけるような環境づくりもおもしろいのではないかと思います。 [問22]
- ・香川大学附属図書館を一般市民に開放し貸し出しされていることは、言葉に言い表せない恩恵を受けています。 [問22]

このように、開かれた大学がスローガンだけにとどまらず、実践に移されつつあることを評価する声が見られる反面、次のような大学のあり方に対する厳しいコメントがあることも大学で働く者は心しておかねばならないだろう。

- ・大学は、これからまだまだ改善の余地が多分に残されているエリアではないかと思います。研究という名のもとに自由が蔓延し、倫理観のある方はともかく、そうでない方は好き勝手に振る舞うところがあるといわれているようです。厳しい社会の目、マスコミ関係からの批判が最も届きにくいところだけに尊大になりやすいのだという見方があるようです。 [問22]

そしてまた、下記のようなコメントは大学の本質を突いており、大学で働く者に大いなる勇気を与えると言っても過言ではないだろう。

- ・テレビ・新聞からも知識はある程度得られるのだが、一方通行。コミュニケーションが図れないという欲求不満に陥る。身近な所では相手にしてくれない。（中略）大人はみんな働いて忙しい。（中略）私はストレス解消に大学（開放講座）へ通うことを選んだ。そこは学ぶ意欲ある人達の集まる場所だと識った。そこには人との出会いがいくらでもあって、それらが私を豊かにしてくれ、心から満たされ新しいエネルギーが得られた。（中略）自ら学ぶことの自由と喜びがここにはあります。 [問22]

## IV 今後の課題

本稿では、かがわ県民カレッジ研究・実践講座に学ぶカレッジ生の実態、および期待する大学像を明らかにしてきたが、今後の課題についても述べておきたい。

現在は学部の授業を公開しているにすぎないが、より効果的な学習を促すような学習方法についての検討が必要となってくると思われる。本調査はカレッジ生の実態や期待する大学像に焦点を当てたため、彼らの「学習者としての特徴」にまでは踏み込めなかったが、本調査にあたって参照した小池らによる広島大学における一連の研究は、社会人学生（大学院博士課程前期）、社会人学生（大学院博士課程後期）、公開講座受講生という大学で学ぶ多様な成人学習者の特徴を、伝統的學生（本稿で言うところの一般学生）との比較により詳細に論じていて興味深い。

その成果をここで簡単に紹介しておこう。検討されている項目は、成人学習者の特徴としての自己主導性（self-directedness）の発揮のあり方（学習の目標、内容、方法、ペース、成果の評価に関する、教員と学習者との間の役割の担い方）、望まれる学習スタイル（「教師による講義」「討論などを併用した学生参画型の講義」「グループワークなど、学生による共同学習」「実習、演習などの体験学習」「個人の関心や能力などを勘案した個人学習」の5タイプの比較）、期待される指導者像（「学習要求充足の支援者」「学習活動の促進者」「内容の提供者」「特定分野の専門家」のいずれが望まれるか）、自己主導的学習のための学習スキルに関する自己評価（「講義内容を理解する」「専門書を読む」「論理的思考」「文献検索」「口頭での発表」「文章による表現」などの自己評価）など多岐にわたっている。

社会人学生（大学院博士課程前期・後期）はおおむね学習者主導を希望し、学習スタイルでは「個人学習」や「参画型講義」の人気の高いのに対し、公開講座受講生はおおむね教員中心や教員主導を希望し、他のグループでは不人気の「講義」の人気の高いという明らかな相違が見られる。しかし、社会人学生（大学院博士課程前期）、社会人学生（大学院博士課程後期）、公開講座受講生いずれも、一般学生に比べて自己主導的学習のための学習スキルには高い得点を示し、支援者や促進者としての指導者を望んでいる。（詳細に見ると違いがないわけではないが、ここでは紙幅の関係上省略する。）（以上、小池 2002；61-65、小池・志々田・佐々木 2002；4-10）

小池らの研究ではさらに、社会人学生（大学院生）と教員との間の意識のズレにも着目している。それは、社会人学生が大学で学ぶ実際の目的と教員が想定するものとの間のズレであったり、社会人学生が期待する学習者の自己主導性に配慮した指導者像と、教員が実際にとっている教員主導的な教育様態とのズレ、さらに、大学で学ぶ上で遭遇する障害についての社会人の回答と教員の推測との間のズレ等々である（小池・佐々木 2004；75-80）。この調査結果は教員の社会人学生に対する理解が進んでいないことを明らかにするものである。小池らは、大学教員が社会人学生の学習を支援する力量は低くはないものの必ずしも十全な状態にあるというわけでもないと述べ、社会人学生に対する指導力を高めるためのFDのあり方にまで考察は及んでいる。

香川大学においてはどうかであろうか。状況は広島大学と大差ないと思われる。カレッジ生の学習者としての特徴はその属性や学習志向の高さを考えるに、相対的に若く学習志向とともに目的志向も高い社会人学生（大学院生）よりも、高齢で学習志向の高さに特徴が見られる公開講座受講生により近いと予想されるが、この点については今後研究を進める必要があるだろう。また、かがわ県民カレッジ研究・実践講座の場合、カレッジ生専用ではなく一般学生向けの学部授業を公開するという形式であり、カレッジ生だけを考慮して学習方法を定めるわけにはいかないという問題があるが、当面は社会人としての経験の蓄積を

講座の中で生かす方法や、一般学生との交流のあり方を検討し、それをFDを通じて教員間で共有することを検討せねばならないだろう。

少子化が進行する中、入学者の確保もさることながら、地域に「香川大学が必要だ」と思う層が厚くなることが求められている。そのためには、研究面で地域の企業・自治体との連携を進めることはもちろんであるが、地域の人々が学ぶ場として大学を開いていくことも求められる。それは単に授業を公開すればよいというだけでなく、彼らに快く学んでもらうための様々な環境整備も含まれる。彼らの香川大学に対する評価を高めることに成功するならば、地域における香川大学のサポーター的役割を果たしてくれることになるだろうし、反対に失敗すれば、カレッジ生のみならず地域における香川大学の評価を低めることになりかねない。それゆえ、Ⅲの3-4で検討したように、かがわ県民カレッジ研究・実践講座で学んだカレッジ生の（正規課程に在籍していないという意味での第三者的な）目から見た香川大学の姿に対しては、大学全体で真摯に耳を傾ける必要があるだろう。

本稿はそのような意味で、単にカレッジ生の実態や期待を知るためのみならず、香川大学に対する一種の“第三者評価”として読むという視点も必要であると思われる。

#### 【謝辞】

香川大学生涯学習教育研究センター清國祐二助教授には、本調査全般にわたってご協力頂いた。とくに、図1、および表1の元データは清國助教授が作成されたものである。質問紙作成に際しては香川大学保健管理センター溝口剛講師より貴重な助言を頂いた。かがわ県民カレッジ研究・実践講座受講生のみなさまには、質問紙への回答にご協力頂いた。データ集計に際しては、香川大学教育学部の大西美穂さん、小池美和さん、坪井良子さんに手伝って頂いた。ご協力頂いたすべての方々に対し、ここに感謝の意を表したい。

#### 【注】

- 1) 学部レベルでは法学部と経済学部の夜間主コースにおいて、大学院レベル（専門職大学院を含む）ではすべての研究科において社会人特別選抜や社会人枠を設けるなどの措置が取られている。
- 2) カレッジマスターは、例えば「カレッジマスター（家庭教育）」という形式となっている。よって、家庭教育、男女共同参画、健康のすべてを選択することも可能であり、実際に複数のカレッジマスターを取得した例もある。
- 3) なお、公開講座講習料規定もあわせて改訂され、公開講座に関しても講習料をある程度フレキシブルに設定することができるようになり、実際に従来より低く抑えられる傾向にある。
- 4) 分析の過程では属性に関して詳細なクロス集計も行ったが、調査対象者数が少なく個人が特定されるおそれがあったため、本稿への掲載は控えた。
- 5) 学部により学生の授業評価や生活実態には差がある。本事業は教育学部の公開授業が中心であるため、本稿では教育学部生と比較することとした。
- 6) この点について、教員との交流頻度と満足度、カレッジ生との交流頻度と満足度をクロス集計した結果について述べておきたい。（以下、交流頻度に関しては「相当頻繁に交流している」「ある程度交流している」をあわせて「交流あり」グループ、「ほとんど交流はない」を「交流なし」グループとした。また、満足度に関しては「満足している」「どちらかと言うと満足している」をあわせて「満足」、「不満である」「どちらかと

言う「不満」をあわせて「不満」とした。)

「交流あり」グループは、対教員とカレッジ生同士でやや異なる傾向を示している。対教員は交流があれば満足するが（対教員の「交流あり」グループでは5名の回答者全員が「満足」と答えている）、カレッジ生同士に関しては満足の傾向を示しつつも、はっきり満足とは言いきれない（「どちらとも言えない」）回答者や、不満を示す回答者が見られる。一方、「交流なし」グループは、対教員、カレッジ生同士いずれも似たような傾向を示しており、交流がなければ「どちらとも言えない」が頻出し、「満足」「不満」は同程度出現している。

このように、詳しく見れば「どちらとも言えない」という回答は、「交流なし」に多く見られることが分かるが、交流がないと満足度の評価が難しくなるようである。

(1)対教員

		交流満足度			合計
		満足	どちらとも言えない	不満	
交流頻度	交流あり	5	0	0	5
	交流なし	6	25	5	36
合計		11	25	5	41

(2)カレッジ生同士

		交流満足度			合計
		満足	どちらとも言えない	不満	
交流頻度	交流あり	12	6	3	21
	交流なし	3	14	3	20
合計		15	20	6	41

7) 参考までに、学歴以外の属性による平均値は次のようになっている。性別：男性4.33、女性3.97。年代：30代3.5、40代3.88、50代4.17、60代3.92、70代以上4.33。就労形態：フルタイム4、パートタイム4.25、仕事に従事していない4、その他3.92。全体平均が4.02点なので、比較的若い世代（30-40代）が辛口、男性および70代以上が甘口採点といったところであろうか。

8) 全体的満足度に影響を与えている要因を探るため、結果を間隔尺度データとみなして相関係数を求めたところ（問1～問15。ただし問4、問12、問13は除外。問15は加工して利用。）全体的満足度と相関が見られたのは、係数値rの絶対値の高い順に、カレッジ生同士の交流満足度（ $r=0.455$ ）、教員の熱意（ $r=0.446$ ）、達成度（3-3で詳述）全12項目の平均値（ $r=-0.347$ ）、「期待の平均値-達成度の平均値」（ $r=0.312$ ）および教員との交流満足度（ $r=0.310$ ）である。また、ステップワイズ法により標準偏回帰係数を求めたところ、カレッジ生同士の交流満足度、教員の熱意が有意な説明変数として選択された。教員が熱意を持ち、かつ、カレッジ生同士の交流満足度が高くなることで、全体的満足度を高めるポイントと言えそうである。

9) 選択肢については小池・佐々木（2004；76）等を参照。本事業の目的に鑑み、11ある選択肢の中の「生活に役立つ知識・技能を身につけること」を、「家庭生活に役立つ知識・技能を身につけること」と「職場や家庭以外での地域活動等に役立つ知識・技能を身につけること」に分け、12に増やした。

10) かがわ県民カレッジでは、カレッジマスター取得者に香川県教育委員会事務局生涯学習課のHP「か

がわ学びプラザするするドットネット”から指導者登録をするように呼びかけているものの、2004年度カレッジマスター取得者26名のうち登録者は4名にとどまっているという。登録は望まないが県教委から依頼があれば協力するというカレッジマスターもいるとのことであり、また個人的に地域活動等の中でその成果を生かしている例もあると思われるが、学習成果の活用が今後の課題であると主催者の県教委は指摘している。なお、ここで他県の例の一つを紹介すると、滋賀県教育委員会および滋賀大学との連携による淡海生涯カレッジでは、平成17年度に10周年を迎えたことからカレッジ修了生にその学習成果をどのように活用しているかアンケート調査を行ったところ、68.7%の修了生が市町や小・中学校、環境関連団体、NPO、自主的なサークルなど、地域における様々な活動を挙げている。(滋賀県教育委員会事務局生涯学習課2006)

- 11) 分析方法については、林(2002; 52-74)の方法を参照した。ただし形態素に分解すると、例えば「身につける」は「身」に「つける」に、好奇心は「好奇」に「心」に分かれてしまう。キーワードとして意味をなすよう、若干の手を加えた。また、一人が1つの記述の中で同じ言葉を言い換えている場合は1つとカウントした。最頻出単語は「場」(または「場所」「ところ」「所」)のあわせて83回で突出して多かったが、これは質問が「大学とは～である」の「～」に当てはめてもらう形式だったことに対応し、「～の場(場所、ところ、所)」と答えることがほとんどだったためである。その場所が具体的にどのような意味を持つかがここでは重要なので、「場所」(または「場」「ところ」「所」)のキーワードは表4から除外した。なお、この方法は形態素に分解する過程で文脈から切り離してしまうため、その分析には限界があることも指摘しておかねばならない。
- 12) はじめにでも述べたように、実は2005年度から講習料は低く抑えられている。これは生涯学習教育研究センター規則改訂が2005年5月の生涯学習教育研究センター運営委員会です承され、同年4月1日に遡って適用されることとなったためである。2005年度の講習料は結果的に低く抑えることができたのだが、2005年度の事業計画段階(2004年度末)ではその点が未定であったため、2004年度同様、部分公開となった。
- 13) 香川大学の学内外の美化活動としては、学生と教職員によるクリーンキャンパスや、地域住民との合同清掃など、一応実施されている。

#### 【参考文献】

- 香川大学『平成15年度学生による授業評価報告書』2004年9月  
 香川大学『第9回学生生活実態調査報告書：平成16年度』2005年8月  
 小池源吾「非伝統的学生の特性と学習スタイル」、『日本社会教育学会紀要』No.38、2002年、pp.57-68  
 小池源吾・志々田まなみ・佐々木保孝「大学における成人学生の学習スタイルー公開講座受講生と社会人学生を中心にー」、『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部』第51号、2002年、pp.1-10  
 小池源吾・佐々木保孝「大学における社会人学生の受容と学習支援」、『大学教育学会誌』第26巻第1号、2004年、pp.74-81  
 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課「地域の大学『淡海生涯カレッジ』10周年事業について」、『県政eしんぶん』2006年1月25日号  
 林 俊克『Excelで学ぶテキストマイニング入門』オーム社、2002年

Appendix A 集計データ一覧

問	項目	実数(人)	比率(%)	備考
< I 香川大学キャンパスライフ >				
問1. 教員の熱意	大いに感じられた おおむね感じられた どちらともいえない あまり感じなかった 全く感じなかった 無回答	22 19 1 0 0 0	52.4 45.2 2.4 0.0 0.0 0.0	
問2. 授業内容の理解	よく理解できた おおむね理解できた どちらともいえない あまり理解できなかった 全く理解できなかった 無回答	13 28 1 0 0 0	31.0 66.7 2.4 0.0 0.0 0.0	
問3. 出席状況	90%以上出席 70%程度出席 50%程度出席 30%程度出席 20%未満出席 無回答	35 6 9 0 1 0	83.3 14.3 0.0 0.0 2.4 0.0	
問4. 欠席理由 (3つまで選択可)	仕事 趣味・レジャー 家事・育児・介護など家庭の事情 地域活動 授業がつまらない 意識がわかない 病気・怪我 その他	17 0 16 14 0 9 13 5	40.5 0.0 38.1 33.3 0.0 0.0 30.9 11.9	比率は回答者 42人中の割合
問5. 1日平均学習時間	3時間以上 1時間以上3時間未満 1時間未満 ほとんどしない 無回答	3 11 20 6 1	7.3 26.8 48.8 14.6 2.4	
問6. 香大図書館の利用	3回以上利用した 1回2回利用した 利用しなかった 無回答	7 5 30 0	16.7 11.9 71.4 0.0	無効回答=1
問7. 教員との交流	相当頻繁に交流 ある程度交流 ほとんど交流なし 無回答	0 5 36 1	0.0 11.9 85.7 2.4	
問8. 教員との交流満足度	満足 どちらかという満足 どちらともいえない どちらかという不満 不満 無回答	0 11 26 3 2 0	0.0 26.2 61.9 7.1 4.8 0.0	
問9. 他のカレッジ受講生との交流	相当頻繁に交流 ある程度交流 ほとんど交流なし 無回答	2 19 20 0	4.9 46.3 48.8 0.0	無効回答=1
問10. 他のカレッジ受講生との交流満足度	満足 どちらかという満足 どちらともいえない どちらかという不満 不満 無回答	6 9 20 5 1 0	14.6 21.9 48.8 12.2 2.4 0.0	
問11. カレッジ受講生以外の学生との交流	相当頻繁に交流 ある程度交流 ほとんど交流なし 無回答	0 3 38 1	0.0 7.1 90.5 2.4	
問12. カレッジ受講生以外の学生との交流について	頻繁な交流が望ましい 時々交流が望ましい 交流の必要性なし わからない その他 無回答	3 33 1 4 1 0	7.1 78.6 2.4 9.5 2.4 0.0	
問13-A. 周囲の協力：職場の上司	大いに協力的 ある程度協力的 どちらともいえない あまり協力的ではない	3 7 1 0	7.1 16.7 2.4 0.0	

	協力的ではない 知らない 該当者なし 無回答	1 2 14 14	2.4 4.8 33.3 33.3	
問13-B. 周囲の協力：職場の同僚	大いに協力的 ある程度協力的 どちらともいえない あまり協力的ではない 協力的ではない 知らない 該当者なし 無回答	3 3 5 0 2 14 14	7.1 7.1 11.9 0.0 2.4 33.3 33.3	
問13-C. 周囲の協力：家族（親）	大いに協力的 ある程度協力的 どちらともいえない あまり協力的ではない 協力的ではない 知らない 該当者なし 無回答	9 6 1 1 1 3 11	21.4 14.3 2.4 2.4 2.4 7.1 26.2	
問13-D. 周囲の協力：家族（配偶者）	大いに協力的 ある程度協力的 どちらともいえない あまり協力的ではない 協力的ではない 知らない 該当者なし 無回答	23 11 1 1 1 3 1	54.8 26.2 2.4 2.4 2.4 7.1 2.4	
問13-E. 周囲の協力：家族（子ども）	大いに協力的 ある程度協力的 どちらともいえない あまり協力的ではない 協力的ではない 知らない 該当者なし 無回答	14 10 6 0 0 5 5	33.3 23.8 14.3 0.0 0.0 11.9 11.9	
問14. 全体的満足度	非常に満足している やや満足している どちらともいえない やや不満である 非常に不満である 無回答	10 24 5 2 0 1	23.8 57.1 11.9 4.8 0.0 2.4	
< II 大学の意味 >				
問15-1. 受講以前の期待 A. 知識を広げたり、理解を深めたりすること	全く期待していなかった あまり期待していなかった どちらともいえない ある程度期待していた 大いに期待していた 無回答	0 0 2 21 18 1	0.0 0.0 4.8 50.0 42.9 2.4	
B. 学ぶことや向上することの楽しさを味わうこと	全く期待していなかった あまり期待していなかった どちらともいえない ある程度期待していた 大いに期待していた 無回答	0 1 1 21 18 1	0.0 2.4 2.4 50.0 42.9 2.4	
C. これまで経験したものは異なる学習に挑戦すること	全く期待していなかった あまり期待していなかった どちらともいえない ある程度期待していた 大いに期待していた 無回答	1 1 2 2 12 1	2.4 2.4 4.8 4.8 28.6 2.4	
D. 職業生活に役立つ知識・技能を身につけること	全く期待していなかった あまり期待していなかった どちらともいえない ある程度期待していた 大いに期待していた 無回答	1 4 11 17 7 2	2.4 9.5 26.2 40.5 16.7 4.8	
E. 家庭生活に役立つ知識・技能を身につけること	全く期待していなかった あまり期待していなかった どちらともいえない ある程度期待していた 大いに期待していた 無回答	1 4 13 18 4 2	2.4 9.5 31.0 42.9 9.5 4.8	
	合計	42	100.0	

F. 職場や家庭以外での地域活動等に役立つ知識・技能を身につけること	全く期待していなかった	1	2.4	
	あまり期待していなかった	3	7.1	
	どちらともいえない	5	11.9	
	ある程度期待していた	19	45.2	
	大いに期待していた	12	28.6	
	無回答	2	4.8	
合計		42	100.0	
G. 称号(免許・資格)を取得すること	全く期待していなかった	8	19.0	
	あまり期待していなかった	3	7.1	
	どちらともいえない	14	33.3	
	ある程度期待していた	14	33.3	
	大いに期待していた	2	4.8	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
H. 人と知り合ったり、社会とのつながりをもつこと	全く期待していなかった	0	0.0	
	あまり期待していなかった	3	7.1	
	どちらともいえない	4	9.5	
	ある程度期待していた	21	57.1	
	大いに期待していた	10	23.8	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
I. 心の張りや生きがいを見いだすこと	全く期待していなかった	1	2.4	
	あまり期待していなかった	1	2.4	
	どちらともいえない	7	16.7	
	ある程度期待していた	21	50.0	
	大いに期待していた	11	26.2	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
J. 時代や世の中の変化に遅れないようにすること	全く期待していなかった	1	2.4	
	あまり期待していなかった	4	9.5	
	どちらともいえない	8	19.0	
	ある程度期待していた	21	50.0	
	大いに期待していた	7	16.7	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
K. これまで得た知識や経験を集大成すること	全く期待していなかった	2	4.8	
	あまり期待していなかった	4	9.5	
	どちらともいえない	8	19.0	
	ある程度期待していた	19	45.2	
	大いに期待していた	8	19.0	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
L. 自分の持っている知識や経験を広く社会に役立てること	全く期待していなかった	1	2.4	
	あまり期待していなかった	5	11.9	
	どちらともいえない	8	19.0	
	ある程度期待していた	19	45.2	
	大いに期待していた	8	19.0	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
問15-2.受講後の達成度				
A. 知識を広げたり、理解を深めたりすること	全く達成されなかった	0	0.0	
	あまり達成されなかった	3	7.1	
	どちらともいえない	6	14.3	
	ある程度達成された	30	71.4	
	十分達成された	2	4.8	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
B. 学ぶことや向上することの楽しさを味わうこと	全く達成されなかった	0	0.0	
	あまり達成されなかった	1	2.4	
	どちらともいえない	4	9.5	
	ある程度達成された	25	59.5	
	十分達成された	11	26.2	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
C. これまで経験したものは異なる学習に挑戦すること	全く達成されなかった	1	2.4	
	あまり達成されなかった	1	2.4	
	どちらともいえない	12	28.6	
	ある程度達成された	22	52.4	
	十分達成された	5	11.9	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
D. 職業生活に役立つ知識・技能を身につけること	全く達成されなかった	1	2.4	
	あまり達成されなかった	3	7.3	
	どちらともいえない	17	41.5	
	ある程度達成された	15	36.6	
	十分達成された	3	7.3	
	無回答	2	4.9	
合計		41	100.0	無効回答=1
E. 家庭生活に役立つ知識・技能を身につけること	全く達成されなかった	2	4.8	
	あまり達成されなかった	2	4.8	
	どちらともいえない	21	50.0	
	ある程度達成された	13	31.0	
	十分達成された	2	4.8	
	無回答	2	4.8	
合計		42	100.0	

F. 職場や家庭以外での地域活動等に役立つ知識・技能を身につけること	全く達成されなかった	2	4.8	
	あまり達成されなかった	1	2.4	
	どちらともいえない	11	26.2	
	ある程度達成された	21	50.0	
	十分達成された	4	9.5	
	無回答	3	7.1	
合計		42	100.0	
G. 称号(免許・資格)を取得すること	全く達成されなかった	6	14.3	
	あまり達成されなかった	0	0.0	
	どちらともいえない	23	54.8	
	ある程度達成された	8	19.0	
	十分達成された	4	9.5	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
H. 人と知り合ったり、社会とのつながりをもつこと	全く達成されなかった	1	2.4	
	あまり達成されなかった	2	4.8	
	どちらともいえない	13	31.0	
	ある程度達成された	21	50.0	
	十分達成された	4	9.5	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
I. 心の張りや生きがいを見いだすこと	全く達成されなかった	1	2.4	
	あまり達成されなかった	1	2.4	
	どちらともいえない	15	35.7	
	ある程度達成された	16	38.1	
	十分達成された	8	19.0	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
J. 時代や世の中の変化に遅れないようにすること	全く達成されなかった	0	0.0	
	あまり達成されなかった	1	2.4	
	どちらともいえない	14	33.3	
	ある程度達成された	25	59.5	
	十分達成された	1	2.4	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
K. これまで得た知識や経験を集大成すること	全く達成されなかった	4	9.5	
	あまり達成されなかった	1	2.4	
	どちらともいえない	16	38.1	
	ある程度達成された	19	45.2	
	十分達成された	1	2.4	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
L. 自分の持っている知識や経験を広く社会に役立てること	全く達成されなかった	1	2.4	
	あまり達成されなかった	3	7.1	
	どちらともいえない	21	50.0	
	ある程度達成された	14	33.3	
	十分達成された	2	4.8	
	無回答	1	2.4	
合計		42	100.0	
問16.「大学」とは何か				自由記入欄参照
<Ⅲ 属性>				
問17. 性別	男性	6	14.3	
	女性	36	85.7	
	無回答	0	0.0	
	合計	42	100.0	
問18. 年代	20代	0	0.0	
	30代	2	4.8	
	40代	8	19.0	
	50代	12	28.6	
	60代	14	33.3	
	70代以上	6	14.3	
無回答	0	0.0		
合計		42	100.0	
問19. 最終学歴	旧制尋常小学校	0	0.0	
	旧制高等小学校	0	0.0	
	旧制中学校・高等女学校	1	2.4	
	実業学校	0	0.0	
	師範学校	0	0.0	
	旧制高校・専門学校・高等師範学校	0	0.0	
	旧制大学	0	0.0	
	新制中学校	0	0.0	
	新制高校	14	33.3	
	新制短大・高専	14	33.3	
	新制大学	10	23.8	
	新制大学院	0	0.0	
	その他	3	7.1	
無回答	0	0.0		
合計		42	100.0	
問20. 就労形態	フルタイム	8	19.0	
	パートタイム	8	19.0	
	仕事に就事していない	13	31.0	
	その他	13	31.0	
	無回答	0	0.0	
合計		42	100.0	
問21. 不都合・戸惑い				自由記入欄参照
問22. その他感じていること				自由記入欄参照



問16：大学とは～である（五十音順）
2世代の考えの極めて大きい事を気付く
遊びも勉強も両立する場
生き方の幅を広げる場
意見交換の出来る場所
行って損はないと、子供に思わせたい場
行ってたら楽しかったらと思う場
今まで得た知識の確認の場
いろんな世代との交流などもあればよい
学習意欲が出る場
学習の場
学問研究の場
学問の場
課題解決に向けての、よき指導者、人生の師を見つけるところ
関心のある分野について理解を深める機会をもらえる場
感動を受ける場
気づきの確認の場
経験・体験の確認の場
高度な教育を受ける場所
交流の場
志を同じくする同胞を得て、一緒に一歩ふみ出せる準備をする場
個人の目標を明確にする場
今後の人生の目標を持つ場
砂漠の中のオアシスのような楽園
サビついた頭を活性化する場
様々な事にチャレンジする場
更に知識を高める場
資格を得たいと思ったところ
資格をとる場
自己の資質を見出し向上さす場
自己の発展の場
自己発見。自己確認。自己実現の場
自己を探求し他者に学ぶ場
時代の変化を見つめる
自分が出来なかった（しなかった）知識を得る場
自分が若がえられる場
自分自身に挑戦する場
自分と異なった人達とのつながりの場
自分にあった価値ある課題を探求し、追求できる素地をつくること
自分をスキルアップする場
自分をみがく場所
社会が一般の人々にも基本的不変の知識と学ぶことの大切さを表示すところ
社会性、知的学習をする場
社会的経験を積み、交流を深める場
社会的に最高基本、基準を底上げ出来るもの
社会に挑戦する場
社会に出て役立つための基礎教育
社会に根づく問題を解決すべく学ぶ場
社会に役立つ知識を身につける場
社会へつなげる人間形成の場

生涯の友(先輩・同輩・後輩)を得るところ
人権を保ちつつ社会参加の練習の場
人生の可能性を試す場
人生はいつも勉強と手をさしのべてくれる場
新鮮で心に張りの出る場
全体人間を養う場
専門的知識の習得
専門的知識を高める場
専門的な知識を得ることができる場
専門的な分野を学び知識を深める場
専門的な勉学をし社会に貢献できる様する場
大学にいけなかった人のための存在
多面的な知識を得る場
探求心を満足させたい場
男女平等の知識と教養を身につける場所
地域の知恵の宝庫
地域の人とも交流できる場
知識、技能を身につける場
知識・技能を身につけ向上する
知識向上の場
知識の宝庫の場
知識を統合、整理する所
知識を広げ理解する
知識を深め、研鑽する場
知識を深めること
知的好奇心、生きがいを見いだす場
知的好奇心を満ちし人との交流がみつけれれる
知的好奇心を満ちす場
知的好奇心を満ちす場
知的欲求を満す場
出会いの場
日常を脱して一人の学生になれる場
脳の老いに勝ちたい願望の場
バクゼンとした自分の考えを言葉で表す知識を身につけることが出来る場
広い知識を得る場
広く大きく学ぶ場
深く追求する場
勉強する意欲を高める場
学びたいと思う者を受け入れてくれる場
学びと仲間づくり
学びの道筋を知る所（道案内）
自ら学ぶ場
未来の夢を限りなくふくらませる場
もっとやってみたい等、知的関心を高めたり広げたりしてくれる場
優秀な若人の出逢いの場
よい友人を得られる所
若い学生を肌で感じる場
若い人との合流によって彼等の考へをしる場
若者の情熱を感じること

問21：不都合、戸惑い（順不同）

- ・自分の生活の忙しい時期と重なり調整できず、授業内容についての再確認が間に合わないまま次の授業を迎えるというようになりまし。レポート作成をしながら少しじっくり振り返ら...と思っています。終了後も質問などさせていただくかと思いますが、よろしくお願ひいたします。
- ・これからもう少し深めて学びたいとき、どんな方法があるのか教えていただけるとうれしいです。
- ・大学の学生さんたちの授業に途中から参加でしたのでその日その日の授業内容は理解したつもりでも先生の意図されている一連のテーマのなかで理解されたのではなくこま切れになっているのでは...という印象をもっています。一つのテーマのなかで流れの中から理解するというのが自分のクセになっているので何となくそこに不安感もちました。
- ・授業についてはむづかしいと思いました。世代の違い（育った環境...年代...）、過去の常識、現代（在）の常識、女らしく・男らしく...、らしく考えさせられました。
- ・若い先生（私より）に教わる事、魅力一杯です。この出逢い（私のひとりよがり）こそ大事。自分の若い頃勉強不足とにかえしたい気持が大ですが能力不足改めて自責しましたがこれからのボランティア活動、団体の長として活かしていきます。機会がありましたら又お声かけして下さい。ありがとうございました。

授業は自分にとって、新鮮なものであり、いっとき青春を味わいましたがこの勉学をいかす場所が自分がないことに気づき、どう自分にいかしたらいいものかと悩みながら通学した日々でした。

すごく初歩的な事なのですが、レポートってどんな用紙に書いたらいいのかわかりませんでした。字数を指定されたので、字数の分かり易い紙に書くのかな...などちょっと恥ずかしくて聞きにくかったです。それから〇〇の授業は遅刻してくる生徒が多くて戸惑いました。

- ・小論文の講座に出席したが、いざレポートを書くとなると、書き方に悩みました。
- ・大学と仕事、家事、育児をまわりの家族、友達に助けられて両立することができました。ただ論文は大学、仕事、家事、育児にプラスされるので時間を取られて大変ですがインターネット論で調べることで、知識が広がりました。またできていないのでストレスを感じつつも頑張りたいと思います。

正直に言えば、8号館の建物が古いのにびっくりしましたが、講義を受ける上では何も支障はありませんでした。

香川での通信とか夜間大学を調べたかったのだが昔のように夜間（通信が不可能であれば）をもう一度復活させてほしい。長年行政にもたずさわってきて資格はぜひ必要と感じた。資格のとれる授業を受けたい。

〇〇 〇〇 〇〇を香川大学で学んだ。単になる教養を高めることにおわらずに地域社会で活動するために学んだ。しかしそのことが実際自分の身についたか。特にファシリテーターなどは実践の回数を増やすことで向上できると思う。県教委からの基礎講座での依頼に次は積極的にとりくむつもりだ。

- ・レポートの書き方教わってもわからない。(60の手習いはムリ)
- ・駐車スペースが少ない。利用しやすい工夫は。
- ・学内の美化
- ・学生の授業中の態度が良くない。

【略】昨年大学へ一歩学ばせてもらった□学生の（特に男子）先生に対して尊敬をもっていない様思った。言葉使い□友達に云う様に言うてみたりやばり家庭教育が母親が教えていないのなあと感じました。然し女生徒はきちんと言葉使いをしていました。

何ごとにしても人間関係が大切であると思う。いろいろな方が□せまい県内での活動ひとりで突出した方がいればなかなかである。そういった人間としてのモラルのお勉強を入れてから講座に進と進きもよく受られるのではないかと考えた。

香川大学公開授業を受けてはじめて若い人達と机を並べて学ぶという事が出来ただけで、本当に若い人のパワーをいただき、またいろいろな人達と出会えて良かったです。仕事の休みを利用して講座を受講出来るので、これからも出来る範囲で勉強していきたいと思っています。レポートはにがてですが、やはり、取り組んでいかなくてははいけませんと思っています。ワークショップ形式で出席者と議論しながら勉強出来たらいいなあと思っています。

レポートの書き方等は親切に説明していただきありがとうございました。講座を受講できたことはなにより経験でした。

提出したレポートに対して、担当教授の評価、感想を（昨年3月中までに）必ず返送して下さい。折角の期待した受講が信頼を裏切られる結果となり不全感のしこりとなっています。次に私は〇〇学会に10数年か

わらしてもらって大学の先生方には比較的多く接していることから申しますと、香川大学の先生方は旧国立のプライドを強くもち、そして地方の特殊性（他に大学がない）から閉鎖的な感じを強く受けます。それから、学会では私のような学歴のない社会人でも発表をさせて下さいました。（4回）香川大学ではそんなことは大それた考えとして望むべくもありません。老人の生き甲斐として又、社会へのつながり使命感としてご検討をさせていただきたいと思ひます。

学生と同じ教室で学べることは驚きとともに何かあるのではないかと期待もしていたが最期まで学生との関係は希薄であったことが残念です。今後、学生との距離が縮まるような講義内容を加えていただけるとうれしく思います。

長い間授業というものをうけていないので、ついていけるかどうか心配だったが先生方も社会人聴講生ということに配慮して下さい、とても楽しく受講出来ました。特に〇〇教授などは意図的に学生とのかかわりを持たせて下さり、若い人達の考えなどよく理解出来、若い人達を見直す機会にもなり非常に有意義でした。レポートの書き方もまだ十分理解出来ていませんが、何となくアウトラインが分かった様です。

1. よい機会が得られ感謝している。授業を契機として、本を読む、新たにインターネット検索を屢々使い知識を深められた。
2. 課題として「レポート」を課せられたがこれが又、忙しさの中でも新たなチャレンジとして学びを深化させていただいた。
3. 又、不勉強の自分のつまらない質問に対して毎回丁寧なご回答を戴き有り難かった。特に、〇〇助教授からは3頁にも亘る文書でご回答を戴き感謝した。
4. 香大で感じたこと①教室の掃除が行き届いていないこと。誰が何時される？②黒板を誰が消して新たに授業を受ける？③白チョークがなくて困られた事もあった。④学生さんの質問、発言がほとんどない？又、指名されても声が小さく充分聞き取れない。⑤教室では後の方に固まる習性がある。⑥学生さんのレポートを教授が読まれた事があるが、立派な内容で社会人組は感心した。

講義を土、日に集中して行ったり、夕方の講義時間を増やして欲しい、講師の先生は、本当、大変だと思う。香川医大の講師の先生には、感動しました。

心理学にはもっと学びたいと意欲がわきました。又、若いお母さんに心（精神）の強いしっかりした考えを持って子供達を育ててほしいのですが、そのアドバイスをするには、どんな勉強をしていったらいいのかわかりたいし学びたいです。色々、ありがとうございました。

1. 若い学生諸君が実に排他的なところが少しもなく実に気持ち良かった。
2. 判らないところや、必要なこと、レジュメを取って置いて呉れたり実に良い一般社会で当然なことを、素直に示してくれた。（特に法、文、科共）
3. 法的に法的には実はこんな条文があること...を知る事が出来たことは嬉しく思ふことの一つでした。日常に会話の中でも「それは確か民法の何条にあるよ...」と確かなことで話が出来ることは信頼性を高めたと思ふ。「老人荘3カ所へ慰問・訪問でも実質役立っている」
4. 六法を開き「この問題は法的にはどんなに定めているかなあ」と思ふことがあっても六法を開くのが煩わしくこそ思ふばかりであったが何はともあれ六法に直ぐに手が出せる様になったのは香大での学んだ（〇〇先生）ことが良かった。

30時間足らずの受講、限られた先生との交流で自由記述とはいうものの管見、感想・意見になるようやささか気遅れしますが元気を出して書かせていただきます。

1. 講義をして下さった先生方について御多用な中を広い心でこの任にあたられたことに感謝しています。
- ・〇〇先生...超御多用なお立場のように楽しく、授業をして下さいました。これが最後の講座に於けるのではないかと拝〇〇しつつ。同輩・先輩が大勢いらしてやるなかで、ご榮進される〇〇先生の教授として、教育行政担当者として、人間としての魅力の秘密はどこにあられるのか、一つの関心事でしたが、少し理解できたように思ひます。
- ・〇〇先生...よくご準備をされた授業でした。有り難うございます。提出したレポートを返さないのが今の方式のようですが、これはやはり粗末ながらも相当の時間を擁して書いた者にとっては、いかなるものかと考えます。改善の朗報がきかれる日の早からんことを祈るものです。
- ・〇〇先生...早く、もっともっと身近なものとしたい思っていた法の世界への誘導を見事に果たして下さいのように思ひます。教授になられてもこの□□さを大切になさって学生にとって希望の星であり続けて下さい。
- ・〇〇先生...教育者としても人間的にも尊敬できるすばらしい先生だと感じました。50年前、〇〇先生のような先生がいらしたら香川大学に対するイメージがどんなにアップしたであろうかと惜しめる気持です。ますます、ご活躍ご発展をお祈りしています。学生の立場、受講者の気持、社会、世間がお分りになる先生だと拝しました。

<p>・学生さんとの交流の場があれば良かった。 ・意見交換</p>
<p>講義の時間変更が仕事の都合上たいへん困りました。</p>
<p>小論文の組み立て方が、むづかしくなった。香大に入りにくく、学生達の様子も少し発表意見を聞いて理解でき、今の若い人達はこう考えるのだ！授業のノートをとったり予習・復習したり家族との話題になったりとても良い出会いの時間でした。</p>
<p>興味のあることを選んで学習させてもらっているので毎回、それなりに気づくことがあって楽しませていただいている。それで充分ですが、学生さん達との公開学習については授業に対してほとんどの学生さん達の反応が感じとれないほど静かです。こんなものか？戸惑いを覚えた。でも人間だから何かは感じているだろうしそんな生の声ももっと聞けるかを楽しみにしていたが、その点はちょっと失望。40年の年月の壁を感じつつも人間としての共通の話題もあるはずだが遠慮しているのかかわりたくないのか必要を感じてないことがまず両方にあることがわかった。時間が永遠にあるかと思っている若者達と限られた時間しかないと意識している社会人の私達。現代社会が豊かさを取り違えてしまった寂しさを痛感。だからこそわずかりとも可能性を見出すことに喜びを感じることもある。</p>
<p>学生の方たちと授業がいっしょにうけられて、おもしろかった。でも、私たちは途中までしか受けられず残念でした。</p>
<p>勉強出来たこととてもよかったです。しかし家事とか家庭の用事のなかの勉強は欠席せざるをえないこともありやはり勉強する年齢はあると思いました。香大生（今）がんばっていますがいま出来ることに感謝してもうとがんばって下さい。</p>
<p>1. 授業については、社会人ということを配慮をしすぎている感じを受けた。 2. 学生は、しんしんに授業を受けていない。もっと授業を受ける態度を指摘すべきである。受講をさせず退室させるなど。 3. 授業内容については、よかったし、講師（教授）が工夫していることがよくわかった。 4. 私自身も予習できていないこともあったが、受講者に課題をもっと与えてほしかった。 5. 学生とも交流する場があれば、互いの見方がわかっていいと思う。</p>
<p>・大学があまりにも汚いのに驚きました。 ・香大生だから頭は皆良いのですが、マナーのないのに驚き、呆れました。 ・レポートは大変なので実践を多くしていただきたかったです。 ・〇〇先生が一番熱心で、親切でした。（ありがとうございます。感謝しております。） ・心理学はおもしろかったです。</p>
<p>地域のためにを期待しておりましたが？今、絵本読みのボランティアや、お茶を子ども、幼保にボランティアでおしえたりしている。しかし、もうすこし地域の内ですべてで支援でもうすこしかかわる場があればなあと思っている次第です。</p>
<p>・本当に一つのテーマについて理解しようとするなら時間数が少なすぎる。 ・参考図書などを紹介してくれるとありがたかった。</p>
<p>学問としての学びだけの科目では物足りなさを感じました。学問とは、社会と連動して、ひびき合って息づいてこそ価値があると思います。そして、それを教えて下さる先生ご自身の信念、ご自身の～論とかをお聞きしたかったのですが、聞けずじまいでした。学生さんと一緒に授業でしたので、余り一方的に話すことは遠慮しました。それぞれの地位、お立場を越えて、私はこう考えたと示していただくと、社会人としては、とてもおもしろく学習できるし、今の社会の事件や問題とくっつけて深く話して下さるととても勉強になると思います。</p>
<p>香川大学は変わった。昨年と今年との違いは大学内が大変奇麗で気持ちが良い整理整頓が正しく出来ているのにびっくりしました。食堂前、会館前の自転車の乱れが無い。好ましくない事柄の不祥事が重なり大学内の乱れが心配でしたが今回大学に入ってくる事が出来まして大学の変わった姿を見ることが出来ました事うれしく思います。授業は態度などが丁寧でわかりやすく指導下さいますので、皆さんに遅れないよう頑張っています。ありがとうございます。</p>
<p>学習に参加出来たことが良かった。香川県教委の主催する「するするドットネット」よりのめいわくメールがあったような気がする。</p>

※固有名称や、個人が特定される内容に関しては、すべて「〇〇」に変更した。  
 ※判読不明の文字は「□□」で表した。  
 ※原文の誤記（誤字・脱字等）には訂正を加えていない。  
 ※プライベートな内容は割愛した。（【略】）

<p>問22：その他（順不同）</p>
<p>久しぶりの学生生活を経験させていただけた場として感謝しています。生協で本を購入しましたがとても親切な対応でありがたく思いました。ただはじめに授業を受けた教室が散らかっていたので学生さんには平気という姿勢にはショックを受けました。教育学部は学生さん、子供たちのために清潔で美しい環境を用意するのは様々な理論以前の基本だと私は考えているので…。生涯学習の場の提供をとってもありがたく思っています。これからは機会があればお知らせいただけたらいいです。</p>
<p>香川県の人間として香川大学は誇らしいと思っておりますが、施設設備（環境）をもっと良くして生徒に気持ちの良い授業を受講して貰いたい。（予算問題はありますが…）県民カレッジに参加させて頂き、憧れの香大生と同じ教室で授業させて頂き、幸福充実感を得ることが出来ました。</p>
<p>構内が汚いのと、これからの入学生のためにはもう少し夢のある設備が必要だと思う。ただ勉学の設備ではいけないと思います。</p>
<p>他の大学に行った事がないので他と比べたりできないんですけど大学ってこんな感じなのか一つと思えました。生徒達も教授も悪い印象は受けなかったです。機会があればまた学びに来てみたいな…と思ってます。</p>
<p>今回は仕事の都合等で生涯発達論心理学を学べませんでした。それと幼児心理学の授業は大変興味深く、もっとも教えていただきたいと思えました。今回で「かがわ県民カレッジ」の講座は終わってしまうのですが、来年度からも引き続き香川大学で学習できる機会を与えていただけたらと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>この度は県民カレッジの研究・実践講座において、香川大学の学生の方々とも机を並べて勉強できる機会を与えていただいたことを感謝しています。ありがとうございます【略】私自身も県民カレッジの講座を通して香川大学が身近に感じられ、教えていただいた先生が熱心な方だったのでとても良い印象を受けました。一般成人向けの公開講座はたくさんあるようですが、オープンキャンパス以外にももう少し高校生向けに講座を増やして、高校生にもっと香川大学を身近に感じてもらえるような機会を作っていただけたらいいと思います。香川県民として香川県で唯一の国立大学である香川大学がより一層すばらしい大学になるよう願っています。</p>
<p>①学校華道等多種の流儀で文化的なことに力を注いでいられることは喜ばしいことと思います。他面、年齢（先生の）、資格も考慮すべきだと思います。定年を75とかか教授者（茶でたてとすれば）の資格を持っている先生とか、一般社会では資格が必要なことに文化的なことでも先生ではだめだと思えます。本当の文化は、学生時代（子供の時から）に学んでほしいと思えますから。②一般人の大学生の受け入れも今後考えていただきたい。</p>
<p>学生だけでなく放送大学、各種講座または私が受けた専門講座の次の県民カレッジ研究・実践講座など市民に開かれた大学であると感じた。しかし一部教授の不祥事はマイナスイメージがまだに残る。大学内で駐車料金がいらぬのはとてもありがたかった。サンポートや県庁内では2000円近くかかる時もある。</p>
<p>・生涯学習の場はもったいない程、充実している。 ・校内を開放して下さっているのが利用しやすいと感じる。 ・校内が広いせいか、外回り、校舎（教室）の掃除が行き届いていない。（私学は全体にきれいに感じる。どうしてか？） ・知識を県民に公開されているが、もっともっとありそう。学生の教室にノート忘れていたり、トイレトペーパーがあったりピアノにほりがかぶっていたりした。 ・学生は校舎、教室に無関心でいいのかと感じる。</p>
<p>スポーツ（高齢者に対する運動）の実践講習があればいいと思う。</p>
<p>【略】こちらの（日本）学生さんがもっと外国の留学生と交流して、次世代の交友関係をよくしてほしいと思う。その事によってギクシャクしている国交問題もよくなるのではないかと思います。毎日世界の事が解りすぎるので自分の理解力の弱さをみせつけられる様で判断力が解らない。</p>
<p>☆先生方が親切である☆構内の庭木の手入れがゆきとどいてないようである。</p>
<p>教育委員会の県民カレッジでファシリテーターをしましたが、学ぶことはたやすいですが、人に伝えるという事はむずかしいなあと思えました。香川大学は一般の社会人を対象に講座を開いてくださるのでうれしいです。</p>
<p>香川大学の学生達はたくさんの事を楽しく学んでいると思います。その中で私が興味をもっていることを学生と一緒に学べることができれば大変うれしく思います。図書館の本は新しく出版された本をもっと多く。</p>



## Appendix B 質問紙

かがわ県民カレッジ研究・実践講座受講生用

### 香川大学社会人学生のキャンパスライフに関する調査

2006年2月 香川大学生涯学習教育研究センター

#### 調査の協力へのお願い

本調査は、近年増加する新しいタイプの学生のキャンパスライフに関する実態を把握し、今後より一層香川大学を地域社会の生涯学習施設として役立てることを目的に実施するものです。

本年度は、かがわ県民カレッジ研究・実践講座の受講生全員、および、地域マネジメント研究科の学生全員を対象として選ばせて頂きました。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

この調査は無記名式で、他の目的に使用しません。質問項目の中には一部プライバシーに関わる内容もございますが、迷惑をお掛けすることは決してありませんので、差し支えない範囲内でできる限りご回答頂きたいと思っております。

なお、調査結果の公表については、調査報告書の発行を予定しており、また『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』への掲載も計画しています。

また、本調査実施にあたっては、香川県教育委員会の協力を得ておりますことを、念のため添えておきます。

- ◆ 黒や青のボールペンなどをご使用の上、本紙に直接記入してください。
- ◆ お答えは、回答番号に○をつけるか、回答欄内に記入してください。
- ◆ 「その他」に当てはまる場合は、( )内に具体的にご記入ください。
- ◆ ご記入が終わりましたら、もう一度、回答漏れがないかどうか確かめてから、同封の封筒に入れて2月13日(月)までに投函してください。

この調査に関して質問がございましたら、下記までご連絡ください。

香川大学生涯学習教育研究センター 担当：山本 電話：087-832-1271(ファックス兼)  
mail : yamamoto@cc.kagawa-u.ac.jp

上記がつながりにくい場合は 同センター事務局 電話：087-832-1273(9:00~17:00)

※なお、文字が小さくて読みにくい場合は、拡大版をご用意いたしますので、お申し付け下さい。

#### < I 香川大学におけるあなたのキャンパスライフについてお伺いします。 >

問1 教員の教育に対する熱意は感じられましたか。(それぞれの授業により差はあると思いますが、全体的にどのようなものであったかお答えください。)

1. 大いに感じられた
2. おおむね感じられた
3. どちらともいえない
4. あまり感じなかった
5. 全く感じなかった

問2 授業内容はよく理解できましたか。(それぞれの授業により差はあると思いますが、全体的にどのようなものであったかお答えください。)

1. よく理解できた
2. おおむね理解できた
3. どちらともいえない
4. あまり理解できなかった
5. 全く理解できなかった

問3 あなたの、昨年あるいは今年の授業への出席状況は平均的にどのくらいですか。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 90%以上出席 | 2. 70%程度出席 |
| 3. 50%程度出席 | 4. 30%程度出席 |
| 5. 20%未満出席 |            |

問4 授業を欠席する主な理由を次のうちから選んで答えてください。(三つまで選択可。)

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 1. 仕事              | 2. 趣味・レジャー |
| 3. 家事・育児・介護など家庭の事情 | 4. 地域活動    |
| 5. 授業がつまらない        | 6. 意欲がわかない |
| 7. 病気・怪我           | 8. その他( )  |

問5 大学の授業以外に、あなたは1日平均何時間ぐらい学習していますか。

1. 3時間以上
2. 1時間以上3時間未満
3. 1時間未満
4. ほとんどしない

問6 香川大学附属図書館を来館、利用しましたか。

1. 3回以上利用した
2. 1～2回利用した
3. 利用しなかった

問7 本学の教員とは、どの程度交流がありますか。

1. 授業時間以外でも相当頻繁に交流している
2. 授業時間以外でもある程度交流している
3. 授業時間以外にはほとんど交流はない

問8 あなたは本学の教員との交流に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかと言うと満足している
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言うと不満である
5. 不満である

問9 他のかがわ県民カレッジ研究・実践講座受講生とは、どの程度交流がありますか。

1. 授業時間以外でも相当頻繁に交流している
2. 授業時間以外でもある程度交流している
3. 授業時間以外にはほとんど交流はない

問10 あなたは他のかがわ県民カレッジ研究・実践講座受講生との交流に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかと言うと満足している
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言うと不満である
5. 不満である

問11 かがわ県民カレッジ研究・実践講座受講生以外の学生とは、どの程度交流がありますか。

1. 頻繁に交流している

2. 時々交流している
3. ほとんど交流はない

問12 あなたはかがわ県民カレッジ研究・実践講座受講生以外の学生との交流について、どのようにお考えですか。

1. 頻繁な交流があることが望ましい
2. 時々交流があることが望ましい
3. 交流の必要性を感じない
4. わからない
5. その他 ( )

問13 あなたが香川大学で学ぶことに対し、以下の方々の協力は得られているとお考えですか。

	大いに協力的	ある程度協力的	どちらともいえない	あまり協力的ではない	協力的ではない	自分が香川大学で学んでいることを知らない	該当者なし
A. 職場の上司	1	2	3	4	5	6	7
B. 職場の同僚	1	2	3	4	5	6	7
C. 家族（親）	1	2	3	4	5	6	7
D. 家族（配偶者）	1	2	3	4	5	6	7
E. 家族（子ども）	1	2	3	4	5	6	7

問14 あなたは、昨年あるいは今年の香川大学での経験に、全体としてどの程度満足していますか。

1. 非常に満足している
2. やや満足している
3. どちらともいえない
4. やや不満である
5. 非常に不満である



問20 あなたの現在の就労形態と職業をお答えください。(2006年1月1日現在)

1. フルタイムで働いている → 職業 ( )
2. パートタイムで働いている → 職業 ( )
3. 現在仕事に従事していない
4. その他 ( )

<IV その他(自由記述)>

問21 昨年あるいは今年の香川大学での一連の経験で、何か不都合を感じたり、あるいは戸惑いを覚えたりしたことはありませんか。何でも結構ですので、ご自由にご記入ください。(例：授業についていけない、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法がわからない、教職員あるいは他の学生との人間関係、大学と仕事・家事・育児との両立など)

問22 その他、あなたが香川大学について感じておられることをご自由にご記入下さい。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。